

## 小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録

日時：令和3年11月28日 午後1時30分～午後4時09分

会場：小金井市立さくら保育園

対象：さくら保育園の保護者

参加者数：9人

○三浦保育課長 それでは、本日はお忙しい中、またお寒い中、小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会にご参集いただきまして、ありがとうございます。

本日、司会進行を務めさせていただきます保育課の三浦と申します。どうぞよろしくお願いたします。

では、定刻となりましたので、説明会のほう始めさせていただきます。

冒頭、開会に当たりまして、3点ほどご案内させていただきます。

1点目、携帯電話等、音が鳴る電子機器につきましては、マナーモードにさせていただくなどご配慮をお願いいたします。

なお、トイレは出ていただいて右側でございますので、お使いになる方はご自由にとりうふうに思っております。

2点目、今回の説明会につきましても市のほうで録音させていただきます、録音した音声を基に議事録を作成の上、個人が特定できない形に配慮した上で市のホームページにて公開をさせていただく予定でございます。あらかじめご承知おきください。

また、個人のプライバシー等々に配慮するため、参加者の方々によります動画、写真の撮影、録音等につきましては禁止とさせていただきますので、こちらもご了承をお願いいたします。

3点目、先ほど園長からも話がありましたけれども、ちょっと寒かったり暑かったりしたら一言お声がけください。また、場内換気に努めておりますけれども、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じかと思いますが、保育園敷地内全て禁煙でございますので、おたばこのほうもしばらくの間、我慢をお願いいたします。

最後になりますけれども、本日の説明会、小さなお子様を保育している関係もございまして、一応2時間を予定してございます。15時30分ぐらいには終了とさせていただきます。

だきたいと考えておりますので、あらかじめお伝えをさせていただきます。

ご案内は以上でございます。本日につきましては、前回と同じ趣旨で説明をさせていただきますと思ってございますので、資料につきましても前回同様のものをお配りしてございます。

なお、クリップボード、下の青い板につきましては、お帰りの際に事務局のほうで回収をさせていただきますので、椅子の上にそのままクリップボードだけ置いてお帰りいただければと思います。

ご案内は以上でございます。

それでは、進めてまいります。

はじめに、出席者の紹介をさせていただきます。

小金井市長、西岡真一郎でございます。

○西岡市長 よろしくお願ひ申し上げます。

○三浦保育課長 市長の左手、小金井市教育委員会教育長、大熊雅士でございます。

○大熊教育長 よろしくお願ひいたします。

○三浦保育課長 向かって左でございます。子ども家庭部長、大澤でございます。

○大澤子ども家庭部長 大澤でございます。よろしくお願ひいたします。

○三浦保育課長 向かって右手になります。保育政策担当課長の平岡でございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願ひいたします。

○三浦保育課長 それでは、説明会に先立ちまして、小金井市長の西岡より一言ご挨拶を申し上げます。市長、お願ひいたします。

○西岡市長 皆様、こんにちは。西岡でございます。

本日は大変にお忙しい中、また、とても寒く、そして、日曜日の午後という貴重な時間帯にもかかわらず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にお時間をつくっていただきましてご参加、ご出席をいただきましたこと、御礼と感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日々、小金井市の保育行政にご協力を賜り、1年半以上に及ぶ長きにわたる新型コロナウイルスの感染拡大の防止への様々な取組にもご理解とご協力をいただいておりますこと、併せて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それでは、この後は、私ども発言者はマスクをしたまま、そして着座にて発言をさせ

ていただきますこと、どうかお許しいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

保護者の説明会につきましては、これまでに6回を開催させていただきました。多くのご意見、ご要望を伺ったところでございます。併せて市民説明会も2回開催させていただきました。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望されるご意見も多く、私といたしましても引き続き開催させていただくことといたしました。そのため、本日の説明会は初めて参加された方もいらっしゃると思いますが、この後、私のほうで若干お時間をいただいた後、再度、質疑応答、またご意見、ご要望を伺うほうに時間的にも重きを置かせていただきたいと思いますので、よろしくお申し上げます。

感染拡大防止の観点から、この後は着座での発言となります。

前回の説明会の中で、特に多くのご質問、ご意見等をいただいたものの中から3点に絞って、冒頭、私の考え方につきましてお伝えをさせていただきます。

1点目は、「廃園する理由」に関してです。

この間、段階的縮小の後に廃園を選択した理由は、市財政のみではないかのご意見を多数いただきました。市が施策や事業を行うに当たりまして、財政の問題は無視できないものであり、これを念頭に置かずには事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件につきましても、財政面が理由に含まれることは事実でございます。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また人件費の問題など、自治体経営という視点におきまして、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を市長就任以来、持っておりました。

その前提の中で、今回の方針案を策定するに至った最大の理由は、公立保育園の運営者といたしましてお子様の安全を第一に考えた結果であり、今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほかにも、今後、人口の減少が見込まれる中で、待機児童も減少傾向にあることや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保という大きな課題もあり、市全体におきましては、さらなる保育サービスの拡充や、質の維持・向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連いたしまして、今回の方針（案）では、小金井市の保育がよ

くることが見えてこないというご意見もいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建てる代わりに公立保育園3園を廃園するというものではございません。同じ保育行政の中で、これまで対応できていなかったことに対し、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定いたしました、小金井市のすこやか保育ビジョン、これは初めて策定したものです。これは保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでも課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた、特別な配慮が必要なお子様への対応、幼保小連携など、幼稚園、保育園と小学校との連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は様々ございます。今回取り組んでいく内容について、詳しくは方針案の9ページ以降に記載しておりますので、ぜひご覧いただければと存じます。

2点目は、「在園のお子様への影響や対応について」でございます。

私といたしましても、園児が少なくなることに対するお子様への影響がないとは考えておりません。特に異年齢保育が実施できなくなっていくことも、事実として認識しております。お子様の日々のケア、また、ご家庭の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、決して現場任せというわけではなく、少しでも多くの取組ができるよう検討しているところでございます。そのような中で、園児が少なくなってもお子様に対して何ができるかについては、現在、現場とも相談をしながら保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つとして、例えば他の保育園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。中でも小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という点で、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からの検討を進めております。

今日は、その関係もございまして、大熊教育長に引き続き出席をさせていただいております。

この幼保小連携について、市長部局と教育委員会という垣根を越えまして、関係課で集まって今後進めていくことを確認いたしました。今後この取組を進めていく中で、くりのみ保育園及びさくら保育園での取組にも力を入れていきたいと考えております。

3点目は、「今後どのような形で合意形成を取っていくのか」、「スケジュールはどのように考えているのか」についてです。

私といたしましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示し、それを方針案という形にまとめ、現在、保護者の皆様、また今後、市民の皆様にも引き続きご説明をしているというのが現在の段階でございます。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議などで議論すべきというご意見、ご要望も多くいただきました。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長きにわたり、様々な場面での議論や検討が行われてきました。公立保育園の役割につきましては、市の役割という形で整理させていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化してきており、私といたしましては、さらに検討を続けるのではなく、小金井市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。新たな会議体の設置などにつきましては、現在、市議会のほうで議員の方から会議を設置するための条例案が提出されています。それにつきましては議会のほうでご判断いただくこととはなりますが、現時点での私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議などを設置するという考えはございません。

そして、この先、どうしていくのかということについてでございますが、前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらに8回の説明会でのご意見、ご要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがって、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案のあった保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえて、私のほうで判断させていただくものと考えております。

それでは、今日はお子様も保育園のほうでお過ごしいただくということでございまして、2時間ということでございます。15時30分まで時間を十分取らせていただいておりますので、様々な意見交換、情報共有、また率直なご意見、ご提言などお寄せいただけたら幸いです。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【質疑応答】

○三浦保育課長 それでは、質疑のほうに進んでまいります。

発言に際しましては、着座のままで結構でございます。また、お名前につきましても、発言されなくて結構でございます。

マイクをお持ちいたしますので、ご質問される方は挙手にてお願いをいたします。

じゃあ、女性の方。

○参加者 本日はありがとうございます。ちょっと第2回の皆さんの質疑が始まる前に1点お伺いしたいんですけども、第1回の説明会、計6回、8回開催されていると思っていて、そこでたくさん意見が出ていると思うんですけども、それが出たことで廃園の案がどこか修正されていたり、検討会が開かれていたりとかはしているのでしょうか。

また、そういう情報が私たち市民からするとどこで情報を得ることができるのかちょっと分からなくて、こういう会に出席してこうやって聞くというのはなかなか難しい人もたくさんいらっしゃいますし、今後この2回目の説明会の意見とかもどうやって吸い上げられて、どこで検討されて、それがどこに反映されたのかとかというのは、どういうふうには私たちは知ればいいのかというのを教えていただきたいです。

一番知りたいのは、第1回の意見の中で、どこが修正案に反映されていたのかというのをまず教えていただきたいです。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。事務的なところなので私のほうからお答えさせていただきます。

結論から申し上げますと、前回のいただいたご意見、ご要望を受けての修正というのはまだ行っておりません。その理由なんですけれども、前回やっていく中で、時間的な制約もある中と先ほど市長からも申し上げさせていただいたとおり、重ねての開催のご要望もいただいておりますし、ご意見、ご要望、まだおっしゃり足りないというような方もいらっしゃったようにお見受けしましたので、そのタイミングで何かをとということではなくて、今後変えていくとすれば、今回の説明会が一通り終わった後になるかなというふうに思っております。

どのような形でお知らせしていくかということにつきましては、少なくとも市のほうのホームページで新しいものが出る場合にはお知らせすることになるかなと思っております。

ただ、保護者の方々につきましては、直接影響があるものもございますので、どういうアナウンスの仕方をするかについてはこちらのほうでもちょっと考えたいというふう

に思っております。

以上です。

○大熊教育長 教育委員会のほうでは、大きく方針を転換しました。市長から特別な対応をしてほしいという要望が、指示がございまして、小学校と保育園との連携をさらに強化してほしいということがありまして、これはそもそも教育委員会としても幼小保の連携を進めるつもりであって、明日の教育プランの中にも記述している内容なんですけれども、前回もここに参加させていただきまして、子どもたち、保育園と小学校の連携がこれからさらに進ませていくことが必要であるというふうに僕自身も認識いたしましたので、この近隣の、廃園を予定している二つの保育園の近隣の校長に私のほうから、積極的に保育園との連携を進める計画を立ててほしいという依頼をいたしました。

しかし、前回もここでお話をさせていただいたんですけれども、教育課程の編成権は学校にありますので、私どもがこうしてほしいとかああしてほしいって、こういうことをやってほしいということを全部指示できるわけではございません。校長がその地域の実態、子どもの実態に合わせて教育課程を編成していくということですので、今ある市の課題として取り組んでほしいということを言いました。

そのとき、いつもより少ししっかりと言い切ったところはですね、小学校という言い方ではなくて、小金井市立の小学校で、保育園であるので、その課題を解決するための取組をぜひともお願いしたいという形で伝えさせていただきました。私が言える、こういうのは非常に細かいところで難しくなってしまうんですけれども、教育委員会として言えることとしては、精いっぱい指示をさせていただいたということは報告させていただきたいと思います。

もう一点あります。それから、まだ公式ではないんですけれども、保育課、それから指導室、学務課、自立支援課の4課、合同の会議を持つことにしました。それで、これからの幼小保の連携をどうしたらいいのかということを検討を開始いたしました。

以上です。

○三浦保育課長 ご質問どうですか。

○参加者 それは、このさくら保育園とか、くりのみ保育園が廃園されることとは別の話ではないんですかね。それはもともとそういう案があって、それをやっついていかれるのはすごいいいことだと私も思いますが、それと廃園、廃園のお金を使ってやる、廃園で浮いたお金を使ってやるから今、だから、ちょっとごめんなさい、私が理解が及ばなかったんで

すが。

○大熊教育長 普通、小学校、中学校で何か新しいことを始めるときというのは、ご存じかもしれませんが、小金井市でコンピューターを導入するときには研究校が3校出来上がりました。前原小と本町小学校と南中です。そこでの実践を踏まえて、ほかの学校に広めるという形にしますので、今回の場合も幼小保の連携を始めるというのは新しい施策なので、そこをもしもやるとするならば、どの学校を選んでもいいんですけど、より喫緊の課題のある本町小学校と東小学校にそういう依頼をしました。

○平岡保育政策担当課長 こちらのほうばかりしゃべっていて申し訳ないんですが、今、教育長のほうから制度的な部分を含めてお話しさせていただいているんですけども、おっしゃるとおり、幼小保連携というのは今回の園を閉めていくこととは全く別の次元で、そもそもやらなければいけない課題であって、どこの自治体もなかなか苦労しているところはあるというのはあるかなと思っています。

小金井市としても、少しずつでもできないかということでいろんな取組を進めてきたんですが、今回たまたまこのタイミングで、この幼小保連携についてももう少し広く考えて話を進めていこうということで、そういうプロジェクトというか、集まりを定期的に行うという形になったというのが一つあります。

その取組の中では、やはり連携という言葉の中には、交流であったりとか、そういうような面も出てくるので、今回、子どもが年々少なくなっていくというプランを持っているこちらの園に対して、その枠組の中で、併せてさらなる取組ができないかというお話もしていきたいと思いますということになりましたので、ちょっとそういう意図で説明を教育長のほうからしてもらいましたので、そのようにご理解いただければと思います。

○参加者 それが異年齢保育の代わりになるという話ではないということでもよろしいんですかね。分かりました。ありがとうございました。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 そのほか、いかがでしょうか。

じゃあ、後ろの女性の方、お願いいたします。

○参加者 幾つかあるんですけども、今の質問者の質問に関する質問と、先ほど市長から冒頭出された答弁というのかな、ご意見に関する質問を大きく分けて2点させていただきます。今、確認があったと思うんですけども、異年齢保育ができなくなる代わりの対策につ



いて、代替案として小学校との連携が上げられているのではないかと私は理解しております。ただ、廃園によって市が子どもから奪うのは、幼児期の子ども同士の活動の場ですよね。学齢期の子どもとの活動が異年齢保育と同等の効果をもたらすというふうに考えられたエビデンスはどこにあるのかなというふうに思います。子どもの成長に対して非常に影響のあることですので、どうしてそのような結論が出たのかをお聞かせいただきたいです。

それから、市長が前回の説明会の答弁で、幼保小の連携が保育の質の確保に大切というふうな見解を述べられております。連携というのが具体的に何をするのかというのが、今回の説明会、今までの説明でもよく分かりません。小学校との連携って普通に考えると、主に入学前に子どもの情報を共有することで小学校に入学した後、子どもが抱える課題を事前に把握するというのが目的だと思います。なので、小学校との連携が保育の質向上につながるという根拠が、私には理解ができませんでした。小学校との連携というのは、何を目的に、どのような方法で行われるのか明示してください。

あと、幼稚園と保育園との連携なんですけども、文部科学省と厚生労働省というふうに管轄が違いますのでカリキュラムも違いますし、単純に連携といっても取り入れられない部分があるんじゃないかなと思いますので、この点についても目的と具体的な方法は明示してください。

個人的に公立小学校の内部の状況はよく分かっているんですけども、今、小学校は土曜日も授業やるぐらい授業時数が足りません。GIGAスクール構想でタブレットが導入されて、小学校低学年はログインするのだけでも3時間、4時間かけています。その中で授業時数を割いてそれをやってるんですけども、幼稚園、保育園との連携と言われても、小学校のほうが行くのか保育園のほうに来るのか分かりませんが、当然、外に出ることになれば担任以外に1人、あるいは2人教員がつくことになりますけども、そんな空き時間のある先生は今いません。それを全部現場にやれということでしょうか。校長に今、依頼に行きましたという市長の、市長じゃない、ごめんなさい、教育長の話がありましたけども、ちょっと現場に全て丸投げというのは、子どもにも現場の保育士や教員にも非常に負担であるということをもう少し考えていただきたいです。

○大熊教育長     ありがとうございました。

確かにおっしゃるとおりで、僕の言った言葉が学校に丸投げしてるというふうに思われた点については、訂正したいと思います。丸投げしてるわけじゃなくて、教育委員会

のほうで、学校にこういうことをやってくれというふうに頼んだり依頼したり、そういうことをしてほしいということを行った場合には、今みたいな形で、子どもの負担とか、そういうことを僕らが何も分かってない状況でそういうことをしてほしいというふうに言っているわけじゃない、子どもたちの実態に合わせてやってほしいから学校に計画を立ててほしいと、こういう言い方をさせていただいたんですね。ただ一方的に何々をやってほしいということではなくて、子どもの実態に合わせてほしいということです。

それから、GIGAスクール構想の本来の目的なんでございますが、先日、ある学校2校に行ってきたんですけど、全校で子どもたちは、2時間、教育委員会として訪問したんですけど、全部の教室でパソコンを使えるようになっていて、子どもたちはぱっと開けると、もうどンドンどンいろいろなことをやってるというような状況です。

何でそんなことをやってるかといいますと、実はパソコンで勉強するというのではなくてですね、明日の小金井教育プランもインターネットで見られますから見ていただきたいと思うんですけど、効率的に学べるところは学んで、体験活動を重視するためにコンピューターを導入するんであると。今すぐにはできないかもしれませんが、これが2年、3年たったぐらいのところでは、調べ学習をする時間を、今まで20分かかっていたのが10分でできるだろう、先生に提出する書類も今まで20分も30分かかっていたところや、先生の説明が長くかかっていたところをコンピューターで説明することによって短縮できる。そこで出来上がった時間、余剰の時間を体験活動に充ててほしいというふうなことでGIGAスクール構想が今進んでいるところです。

つまり、今、確かに子どもたちの活動はいっぱいいっぱいになってると思うんですよ。それが少しずつ進んでいくときに、子どもたちにとって、未来をしっかりと生きていく子どもたちを育てるためにも、今以上に体験活動が重視されるという、重視していかなければならないと。その教育を推進するためにコンピューターを導入したと、こういうふうに理解していただきたいんですね。

ですから、確かに今はおっしゃるとおり、いっぱいいっぱいのところもあると思うんですけども、今後そういう時間が少しずつ生まれてきたときに、当該の小学校で中心的に活動する内容の一つとして幼小保の連携を取り入れてほしいということを伝えたいというふうにご理解いただきたいと、そういう……。

○参加者

すみません、であれば、今いっぱいいっぱいときに幼小保の連携も一緒に並行するんですかということです。

- 大熊教育長 いえ、今すぐにやってほしいと僕は言ってるわけじゃないんですね。
- 参加者 どの点がですか。
- 大熊教育長 ですから、幼小保の連携を来年からすぐに始めてくれと言ってるわけではないんですよ。
- 参加者 市長、それでよろしいんですか。廃園が進んでいくのは、もうすぐなわけですよ。下の子が入ってこないという状況はもう目の前に来てるわけですよ。その状況で幼小保の連携はしなくていいということよろしいですか。
- 大熊教育長 しないと僕は言っていないんです。
- 参加者 ちょっとごめんなさい、市長に聞いてます。
- 西岡市長 今、教育長が答えていますから、まず教育長のお話を聞いてください。
- 大熊教育長 しないとやっているわけじゃないし、それが、非常に難しいんですけど、子どもたちの実態に応じて取り組んでいってほしいということが一番伝えたいことなんです。だから、頭ごなしにこうしてほしい、ああしてほしいというふうに言ってるわけではなくて、ぜひともそういう工夫をしてほしいというふうに言ってるところです。
- でも、少し理解していただきたいのは、今は普通の状態ではないと。今、市が抱えている課題に対して、いわゆる小金井市立の小学校として、その課題に向き合ってほしいというところまで伝えたいというふうにご理解いただきたいと思います。
- 西岡市長 少し総括的になりますが、改めてご答弁させていただきます。
- 異年齢保育、いわゆる集団保育がですね、さくら保育園並びにくりのみ保育園につきましても、通常どおりの保育ができなくなる。それは冒頭申し上げたとおりでありまして、十分認識しております。そのために、さくら保育園とくりのみ保育園においては、他の公立保育園にはない、やはり特別な対応が必要だというふうに考えております。
- 今からももちろん想定をして、市長部局と教育委員会で会議体もつくりまして、決して現場任せではなくて、教育長もその会議に出て、大澤部長も、担当部長も、担当課長も全員出席する中でその会議体を設置し、検討をスタートしてございますので、現場に丸投げということではなくて、私たちも一緒に考えていくという姿勢です。
- その中で、いわゆる幼稚園と保育園との連携はあまり想定はしておりませんで、小学校と幼稚園、小学校と保育園という、その関係性で小金井市は十分な連携が取れているのだろうかということを考えると、私が見ている限り、先進的な23区の例などと考えた場合には小金井市はまだまだ脆弱なので、やはり切れ目のない子育て支援につなが

て、子どもたちの目線に立って安心して接続できるような、今行っていない取組ができないものか、そのことを考えた中で、これは全体的にやらなければいけないことなんです。全体的にやらなければいけない状況なのですが、さくら保育園とくりのみ保育園においては、ちょうど私たちが今、幼保小連携を進めていくという渦中の中にあって、段階的縮小という現状がありますので、その中で取組を強めていきたいという考え方があります。

なお、このことだけで異年齢保育に代わる、子どもたちのためになるような取組は一つであると思っておらず、他の保育園との交流や地域との交流、もちろんこれからも検討は進めていくわけでありますが、実際に3歳、4歳、5歳のみ、それから4歳、5歳のみ、令和9年度から令和10年3月31日までは5歳児クラスのみという状況になってしまいますから、その年度年度に合わせて保護者の皆様、保育士の皆さん、各保育園の皆さんと保護者の皆様と保育課と関係者で、やはり今想定してなくても、その時点でやるべきことについてはしっかり進めていくことももちろん念頭に置いているところであります。

子育て支援の中で幼保小の連携が一体何につながるんですかというご質問もありましたけれども、やはりよく言う小1の壁というような社会的な課題もございます。保育園から小学校に接続する際によりスムーズに、情報共有も含めてでありますけれども、今まで小金井市が十分取り組めていなかったようなことについても取組を強化していき、切れ目のない子育て支援につなげていきたいということでお話をさせていただいております。

なお、集団保育、異年齢保育に代わるものというのは、なかなか難しいわけでありまして。それは認識してございます。したがって、さくら保育園とくりのみ保育園につきましては、可能な限り最大限でき得る対応をしっかり取り組んでいきたいという方針を表明させていただいたものをご理解をいただきたいと存じます。

○平岡保育政策担当課長 私からもいいですかね。すみません。

冒頭お話しされていた異年齢保育というのが、未就学児の幼児のお子さんたちとの交流というか、日常生活の中でも含めてだと思うんですが、それに対してどうして小学生との交流がこれに入ってくるのかというようなお話が最初にあったかなと思っています。

こちらのほうの最初の頃の説明がちょっと言葉が大分足りなかったのかなと思っています。

まして、その後の説明で少し多めにお話をさせていただいているつもりなんですけど、市長からの話もあったとおり、やはり異年齢保育の代替として交流事業をやれば良いというふうに安直に考えているわけではないんです。ただ、異年齢保育の内容の中のごく一部と言ったら失礼なんですけども、一要素の中に異年齢での交流的な要素がありますので、それと子どもさんたちが年々、園の中で減っていくという状況もありますので、そういうところで何か違う取組をできないかということで交流というものを outsourcing させていただいたんですね。

それを今、間話をちょっと飛ばしてしまっていて、異年齢保育ができないので代わりに異年齢の交流をとというような言い方にまだ文章としてはなっていますけれども、そういうお話をしているので多分違うでしょうというお話をどの会でもいただくのかなというふうに思っています。

こちらとしてお伝えしたかったのはそういう視点でありまして、ですのでそうでないほかの取組でということであれば、当然小学生との交流というのも視野に入れてもいいと思っておりますし、地域の方々との交流というのも視野に入れてもいいというふうに思っています。具体的にどういう形でということでは、まだこちらとしてもお示しできる状況ではないのは前回と同様で申し訳ないんですけども、そういうところがあります。

それから、幼保小連携と交流がどう関係するのかというようなご質問もあったかなと思うんですけども、おっしゃるとおり、幼保小連携で一番問題になっているのは、おっしゃっていただいた小学校に上がる時のそのお子さんがスムーズに小学校に進学をして、小学校でも今までどおりの生活ができ、教育を受けられるためにと、学校のほうでの受入れ体制というか、そういうようなところでメインになってきているのは確かに事実なんですけれども、一足飛びにそこだけ目指していくというような状況はなかなかないというふうに思っています。

形として、ほかの自治体の事例でも、本市でも学校単位ではやっていると思うんですけど、例えば5歳になったときに自分が上がる小学校を見に行ったりとかですね、そういうようなことはあるかなと思っています。それも交流という言い方が適切かどうかは分かりませんが、そういうような連携よりももう少し緩やかなところも含めたつながりが小学校と保育園、また小学校と幼稚園でもこの取組を行っていく中では必要だろうというふうに思っています。

ただ、それが今、制度というか、仕組みとしてかちつとしたものがない中で、学校さ

んがご努力してやっていただいているのもありますし、園のほうからお願いをしてやらせていただいているものも、民間も含めてそれぞれあるのではないかというふうに思っていますので、そういうつながりの中での交流というような側面がこの幼保小連携の取組の中には含まれていきますので、そういう中で今回の交流という部分についても別に単独で考えるのではなくて、そういった大きな仕組みを動かしていくときに併せてそれも考えていこうということでお話をさせていただいておりますので。よく制度をご理解いただいているので、こちらのご説明が不十分で違和感がある部分は多々おありかと思うんですが、少々長くなりましたが、こちらが今考えている考え方については今申し上げた形かなというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

○三浦保育課長 いかがですか。

○参加者 何かそんなに長々質問したつもりはないんですけど、何か前回同様、答弁がすごく長いので、聞いている皆さんもそうだと思うんですけど、どこが答弁内容なのかがちょっとよく分かんなくなっちゃいますので、司会の方がその辺を整理していただけるとありがたいです。

先ほど大熊教育長のお話は理解できました。私が疑問に思ったのは、今それをやるのかということなんですよね。現場がいっぱいいっぱいなのはご理解いただいていると思いますので、そこは大変ありがたいんですけども、いっぱいいっぱいの段階で廃園が出てきたと。市長は幼保小連携をやっていきたいと、そのお考えも理解しました。

ただ、幼保小連携を、今の平岡課長のおっしゃってるようにやるとすると、やっぱり現場がやることになるわけですよ。時間を使って子どもを連れてってということになるわけですよ。それを今やるんですかという質問を私はしたつもりです。

前回のさくら保育園の説明会でも、幼保小連携というのは新しい取組で、他園との連携というのも新しい取組で、それが職員が少なくなる中でやるんですかという質問が出たと思うんですね。それに対して答弁がなかったんです、前回。心理的なケアが必要な子が出るんじゃないですか、移動が負担になる子もいれば、新しい環境にぽかんと置かれて不安になる子もいるわけで、職員が少なくなる中でそういったケアまでできるのかという質問は出てますよね。

私も疑問に思ったんですけど、移動を伴う、たしか市長じゃなかったと思うんですけど、徒歩以外の手段も検討するというふうに前回述べられています。そうするとバスとかが考えられるんですけども、バスで死亡事故がありましたよね。あれは人員不足以外

にもあるかもしれないですけど、それも大きな原因だと思います。保育士が減る中で子どもを移動させるということになれば子どもの安全確保というのは当然おろそかになるはずで、そのリスクを市がどのように認識されているのかな。子どもの安全が最優先とおっしゃるのであれば、ここの発言に関してはきちんと責任を持って答弁していただく必要はあるのではないかと私は思っています。

2点だけで構いませんので、今幼保小連携をやって、子どもや現場がいっぱいいっぱいになるというのは目に見えてる状態をまたつくるのかということについて、もう一点が、廃園が決まった場合に他園との交流、移動手段はバスも含めてということですけども、本当にそれを安全確保ができると思っていられるのか、私は保護者じゃなくても多分疑問だと思いますので、お答えいただきたいです。

○西岡市長 大きく2問です。今なのか、今いっぱいいっぱいであることができるのかというご質問でございます。

やるべきことは、まず基本的にはやらなければいけないと思っています。そして、他市の例、他区の例、先進自治体の例なども参考にしながら研究、検討も進めていきたい。これは全体に関わることで、幼保小の連携はですね。私が経験したことがあるところでいえば、私、杉並区の認可保育園で仕事、事務長をやっていましたので、接続する小学校とは頻繁に園長と卒園児、5歳児がよく通っていたなということ、いろんなことやっていたんだなということは身をもって感じていまして。今、小金井市にあっては、その部分が非常に脆弱だと思っています。いつからスタートできるかというのは、保育園の方もかなり多いですから、小学校のほうの体制もあります、会議体できてスタートしていくと。特にさくら保育園とくりのみ保育園には対応が必要だということ。

4歳児と5歳児になってしまうのは令和8年になりますね、この方針案でいけば。その時点から始めたのではやはり遅いとは思っていますから、どの段階から将来につながるような切れ目のない支援をしていくのかということになると、なるべく早いほうがいいとは思っていますけども、実際に4歳、5歳児になったときにいよいよスタートというのでは遅いと思っていますから、なるべく早くそういう取組ができるようにすべきです。小金井市の保育園全体のことを考えれば、やはり早い段階から段階的にですね、一気に全ての保育園ということにはなかなかいかないと思っておりますが、進めていく必要はあるだろうというふうに考えています。

なので、今なのかという答弁で考える、ご答弁するとすれば、なるべく早期にスター

トをしたい。そして、くりのみ、さくらにつきましても、なるべく早く備えていきたいというふうにご答弁させていただければと思います。

それから、他園との交流や小学校との接続のときに、必ずバスを使うかどうかというのはちょっと分かりません。距離的な問題や交流する対象にもよるところですし、場合によっては自園に来てもらう、関係者に来てもらう、相互の行き来があるのかなと思っています、交流という面においてはですね。

しかし、子どもたちの安心・安全、特にご指摘のように、今、全国で本当に悲痛な、交通事故によって本当に尊い命が犠牲になってしまっている例が多発しているなど思っています。あってはならないことだと思います。なので、安全対策についてはもちろん万全の体制を取って、これは何をやるにしてもそうだと思うんですね。日頃のお散歩もそうですけれども、保育所の方々にも、これは公立、民間問わず、歩道を歩くときにも本当に細心の注意を払いながら、一生懸命、安全対策を取りながら、現場の保育士さんたちには民間も含めて頑張らせていただいております。

市としてもそういう交通安全対策の面にもしっかり念頭に入れて、安全面の確保ということは、これは常にやらなければいけないことだというふうに考えておまして、ご答弁させていただきたいと思います。

○大熊教育長 幼小保の連携は、実を言う就先ほども言いましたように、これにも書いてあるというのは、これ去年つくった段階で、この廃園問題が出てきたからどうするかという問題ではないということですね。

ここに何て書いてあるかという、「幼稚園・保育園等の連携を図り、幼児期の教育や自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、小学校入学当初の各教科の学習に円滑に接続できるよう」という、そういうことなんですね。つまり、保育園で育ってきたことを小学校でも生かせるようにするということが重要であろうというふうに考えているんです。そのためには子ども同士の関わりも重要だと思いますし、それから、もう一つは教員同士の関わりも必要だろうと。その辺のところの交流がない限り、これは実現できないというふうに考えています。

そういう意味では、これまでそういうことをあまりやってこなかったという反省も含めて、子どもたちの視点に立ってスムーズな接続ができるように、さらなる連携を図っていきたいというふうに考えているところです。

以上です。



○参加者 ほかの方も質問あると思うので、一回切らせていただきます。

○三浦保育課長 ほかの方いかがでしょうか。

前の方。それじゃあ、答弁のほうは少し短めにお願いします。

○参加者 ありがとうございます。まずなんですけど、そもそも論なんですけど、そもそも何で小金井市に住んでいるのか、私、うちの家族はなんですけど、ここにいらっしゃる方はもしかしたら選んでいるかも分からないんですが、小金井市に住んでる理由って、公園があつたりとか緑があつたりとか、まだ自然があるということと、学力が高いですよ、小・中学校の。学力が高いからいるんですよ、ここに住んでるんですよ。

それで、今、保育園が廃園になるという話になって、財政がですね、ここでごちゃごちゃ言って財政難がなくなるとは思わないんですけども、何でもかんでも検討段階なのに、はっきり言って4月から入園したんですけど、詐欺に近いですよ。その前の段階で廃園なんて一言も言われてないんですから。皆さんすごく論理的にお話しされている中で感情論で大変申し訳ないんですけども、知らないわけですよ、廃園になるなんて。はっきり言って、民間に移転するみたいな、そんな話すらも保活している状況では知らないですよ。市民は知らないんですよ、全く。知らないのにいきなり入ってきて、8月に廃園しますと言われて、でも財政難なんだろうがないんです、認めてくださいって。何かここで説明会してるのも、説明会をやっているんだからもう意見は聞きましたよ、だからこのまま通しますというふうにはしか考えられないんですね。

しかも、何言ってもまだ検討段階です、まだ検討段階です、具体的には分かりません。幼保小連携の話も今ありましたけれども、幼保小連携とかといったって、実際、校長先生の力量とかもあるじゃないですか。小金井市で雇っているわけじゃないんですから、実際に向こうの小学校の校長先生がしっかり力量を持った方でなければ、新しいことってできないですよ、行政が幾ら言ったって。そこら辺はちょっと私も知っているので言ってしまうんですけども。

なので、別に今ここでごちゃごちゃ言ったから財政がよくなるとは思いません。廃園しなきゃいけないのかもしれないかもしれません。そこは仕方がないのかなと思えたとしても、実際、自分の子どもが一番大事なんです。子どもって、海外の文献とかでもそうですけど、6歳までに人格が形成されて、それまでに過ごした経験で将来の年収まで変わるって言われているんですよ。そういう大事な時期に大人の理論で廃園になります、子どもはどんどん減ってきます、減ってきて嫌だったら、あなたが転園させてくださいって親任せ

なわけですよ。時期尚早なんじゃないですか。

それで本当に、じゃあ廃園したからといって、保育の質全体的にどうやって上げるんですか。すこやかビジョン見ましたけど、それで上げられるとはちょっと私にはあんまり分からなくて。さっと読みましたけれども、何かアンケートがいっぱいいたりとかしてて。

それで実際、上がるのかな、どうやって上げるのかな。自分の子どもを犠牲にしてまで廃園にするんだったら、今後小金井市の保育園の質が本当に上がるって担保されてなければ、賛成なんかできるはずないじゃないですか。どうやって上げるつもりなんですか。教えてください、本当に分からないので。お願いします。

○西岡市長 様々なご指摘やご意見をいただきました。貴重なお声を聞かせていただきまして、ありがとうございます。

小金井市の行っていることは詐欺だというようなご指摘をいただいたことは、非常に厳しいご意見をいただいたなと思っております。ただ一方で、私どもも長い間、この公立保育園、平成9年から小金井、私はまだ当時は市長でありませんでしたけれども、公立保育園の議論の歴史をひもときますと、平成9年からずっと議論が行われ、いろいろな会議体がつくられてきて、結果としては公立保育園5園を直営で維持してきているというのが結果としては現状です。その間、制度も変わり、社会情勢も変わり、人口の将来、令和8年度をピークに年少人口も緩やかに減少、小金井市の人口も残念ながら、今は微増傾向ですけれども、令和13年辺りをピークに緩やかに減少していくと。

私が市長に就任したのは平成27年でしたけれども、当時の保育園の総定員数は1,700名でしたが、来年の4月には4,000名弱になります。この間、待機児童の解消ということで、全力で子育て世代の方々に安心して子育てと仕事を両立できるまち、子育て・子育て・教育環境の向上こそが小金井市の持続の発展につながっていくということを私は確信をして、いろいろ努力はしてまいりました。職員の皆さんも保育園の皆さんも、公民問わず皆さん一緒に、小金井の子どもたちのためにずっと努力をし続けていただいているというふうに認識しています。

しかし、確かに議論はしてきましたし、運営協議会という代表者の方々を構成する方々とも、ずっと長い間、民間委託、民間移譲、民間活力を導入した形での保育園の運営の方策を巡ってもずっと協議会をしてまいりましたが、じゃあそれが一人一人の保護者の方々に事細かく全てをお伝えできていたかといえ、そこは難しい点があったなど

いうことでは反省しなければいけないと思っております。

ただ、私どもとしては、長い間のこの議論に公立保育園の経営をしている経営主体としては、もうここでやはり、議論に方向性をしっかり固めて、方針案というものを固めて、保護者の方々にお示しをさせていただきました。それが今年の7月ですね。そして、その後、0歳児の募集、令和4年4月1日からというところで想定しておりましたが、種々いろいろなご指摘や意見シートを頂いて、様々なご意見もいただきまして、一旦修正をしまして、令和5年の4月1日から0歳児募集を停止して段階的に縮小し、令和10年3月31日をもって、さくら保育園とくりのみ保育園は廃園をする。卒園まではしっかり責任を果たさせていただくのはもちろんのことです。たとえ5歳児が1人になってしまったとしても、保育園の経営は続けます。それが小金井市の責任だと思っております。

大変厳しいご指摘いただいたことは、もう真摯に受け止めさせていただきますが、財政的な課題、人材確保の課題、施設の老朽化、それから将来の人口減少と保育園、民間含めてかなりの保育園の設立を行ってきたという状況、過剰な飽和状態は、やはり避けなければいけないという時期、これを見誤ってしまうと全体が崩れてしまいますので、そこは全体の定員数のバランスは、市が責任を持って考えていかなければいけない。先の見通しを持ちながら考えなければいけない。今やろうと思っても効果が出てくるのは数年先になるのが保育行政でありますので、そういう考えです。

さらに、高めていかなければいけない、手が届いていない、あるいは、もっともっと充実しなければ、やっちはいるんですけども、まだニーズに応え切れていない、保育のニーズにしっかり応えていくということ、そこには一定の財政や予算も必要になるということ、こういったことを総合的に判断いたしまして、段階的縮小から廃園ということで相互にぜひご理解をいただきたいということでこのような説明会を開催させていただいております。

保育の質をどう高めていくのかということでもありますけれども、まず一つは、お読みになったということではありますが、約2年間かけてかなり真剣に、本当に真剣な議論をしていただいて、今まで小金井市に全く存在しなかった初めての、このすこやか保育ビジョンという市の計画ですね、これは初めてつくったものです。それから、質のガイドラインというもの、この二つの、ビジョンと質のガイドラインを小金井市と公立保育園が市の中では率先して実践を行いつつ、民間保育園は民間保育園で保育理念があり、東

京都の児童福祉審議会の審査を経て、そして、開設をした後は厳しい監査などもまた第三者機関の評価なども受けながら、運営していただきますが、この小金井市においては、このビジョンと質のガイドラインを公立民間問わず、認可、認証、小規模、家庭的保育問わず、保育に従事する皆様方の共通の旗印、あるいは横串といいたまいますか、同じ共通の理念ということで、この理念の実践に向けて取り組んでいくスタートを令和3年度に切ったということで、始まったばかりです。

そのための具体的な取組としては、保育課の中に巡回専門チームを設置させていただきたいと考えております。その巡回専門チームには、さくら保育園やくりのみ保育園で様々な経験を積ませていただいた保育士の方にも入っていただきたいと考えておまして、これまでになかった取組を研修や周知啓発や様々なことを行いながら、民間保育園の皆様方とともに市全体の質の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

この中で保育の質の維持・向上に向けてということで、答弁の時間もありますからちよっと割愛しますが、保育の質の維持・向上に向けてということで、48ページに、(1) 保育の質のガイドラインの活用、(2) 保育者の研修、(3) 各種評価の実施、(4) 保育士の確保、(5) 保育分野におけるネットワークづくり、(6) 幼保小の連携ということで項目を掲げさせていただいております。この中の項目を全て実践をしていくことが保育の質の維持・向上に向けて必要だということなので、質の維持・向上のために何をしますかと問われますと、この48ページ、49ページに書いてあることを実践していくことだと私は考えております。

○三浦保育課長 どうぞ。

○参加者 どうやって実践するんですか。実際、市長って、多分、保育園を回ったことございますか、小金井市の。私、前回の第一中のかのときの質疑でもお話ししたんですけど、小金井市の保活をするに当たって大体、多分20か所ぐらい保育園を回ったんですね、公立だけじゃなくて民間も含めて。回ったんですけど、結構ひどいところは本当ひどいですよ、実際。公園とか遊びに行つて保育士さんがめっちゃどなつてたりとか、何か床が抜けている保育園あったりとか、結構ひどかったんですよ。最終的にここに決まったんですけど。

安心して子どもを、今現状でも、質とかという以前の問題なんじゃないかなというぐらい大丈夫なのかなというところ結構あると私は感じていて、厳しく見ているわけではないと思うんですけども。だから、そんな状態で廃園をして、安心して預けられるの

かなというのがすごく不思議なんです。

実際、保育課のお仕事なのかもしれないですけど、そういうことというのは、ちょっと分からないですけど、最低基準とかも恐らくあるんでしょうから、認可保育園というのは、あると思いますから、そういうのを経て、もちろん開園してるとは思うんですよ。ですから、最近の保育園とかというのは、逆に人材がいらないだろうなという感じですよ。公立も人材が少ないなという印象で、何か物すごい若い保育士さんとかが多くて、挨拶一つまともにできないような保育士さんとかよくいらっしゃいますけど、公立の園の方ってどちらかというと年齢が割としっかり、中年ぐらいの方々が結構多くて皆さんしっかりされてますけれども、そこはありがたいなと思っていますけど。何ですかね、新しいところは本当に若い人ばかりで、挨拶もちゃんとできないし、多分指示を待ってるんだろうなという感じで、すごい怖い主任さんみたいなのが1人いて、あとは指示待ちみたいな感じに見受けられますし。園長先生と説明会、コロナ禍だったんであんまりいろいろ見られなかったりとかもして、園長先生とお話しするだけみたいなのもありましたけど、今度、園長先生が物すごい、うちはこうなんで、こうなんで、こうなんで、こうじゃなかったら入らないでくださいみたいな、そういう説明のところもありますし。

それで、すこやかビジョンで、そんな状態で、すこやかビジョンで、大変失礼なんですけど、質が上がるとはちょっと考えにくいなというふうに個人的には思っているんです。なので、自分の子どもがすごく不安定な時期をこれから過ごさなきゃいけない。今子ども1歳児なんですけど、0歳児だってこの話を聞いたら今後入ってこないかもしれないですよ、今度の4月ね。そしたら、5歳になったときに二つ下の学年の子がいなくて、もしかしたらどんどん1歳の子も減っちゃって、同じクラスの子もだんだん少なくなっていくみたいな、そういう不安な状況に入るのに、どうやって向上させるのかなというのが疑問なんです。ちょっと私だけいっぱい話してもあれなんですけど。

○西岡市長

まず、市長は保育園を回ったことがありますかというご質問いただいております。公立保育園については、日々、保育課の職員からいろんなお話も聞きますし、各園の園長さんたちと保育課は頻繁に会議体を持っていますから、いろんなお話は聞いています。私も運営協議会に関連する会議にも出席しておりますので、保護者の方々から生の声を聞いておりますし、保育園の様子は日々見ております。

それから、民間保育園は、新設園の保育園は必ず訪問するように、ちょっとコロナ禍がありましたので民間保育園の訪問はちょっと時期的には厳しい状況は正直ありました。

しかし、コロナ禍の中で非常に頑張って、いろいろなリスクを抱えながらコロナ禍の中で頑張ってる保育園の方々には市長としては本当に感謝をしなければいけないので、ちょっと数字は定かではありませんが、この1年以内、1年半以内ぐらいの間に、恐らくは30園近くは私一人で直接訪問させていただいてます。そこで園長さんや主任先生たちから、いろんな話や、いろんな声を直接いただいてまいりました。その状況は担当の部長や課長とも共有をさせていただいております。一義的にはコロナ対策ということがメインでしたけれども、やはり新しく小金井市に開設していただいた保育園の皆様方、民間保育園にもやはり長く定着してもらいたい。そして、民間保育士の方々の処遇も非常に厳しいという社会現象がありましたので、私は市長に就任してから、宿舍等の借り上げの予算も補助事業にも早速いち早く手を挙げて、民間保育士の方々の処遇の改善。民間保育園を開設するには、これは保育士を確保するという並々ならぬ努力が求められておまして、非常に苦しい思いをしながらも使命感を持って頑張っていると考えております。

民間保育園に対して大変厳しいご指摘をいただきましたけれども、私どもは民間保育園の方々も同じ保育を担う大切な連携していくパートナーだと思っておりますので、もちろん何か課題や指摘があれば市からも指摘することはありますし、先ほど申し上げましたように東京都の監査や第三者評価委員会の評価なども受けながら民間保育園も経営を行っていただいております、全体の質の向上にはしっかり取り組んでいきたいと思っております。

この保育計画、今年策定したばかりでありますけれども、この48ページ、49ページに書いております項目をしっかり実践をしていくということが保育全体の質の向上につながっていくと考えておりますので、まず策定委員会の皆様方に懸命につくっていただいたこの計画に書いてある内容を実践していくことが小金井市には求められているし、そのことに一生懸命に取り組んでまいりたいと考えております。

そして、段階的縮小から廃園ということに伴って生み出される財源や人材というものがあありますが、この辺の分野につきましては、その全てを子育て・子育て・教育環境の向上に充当していくというのが市長としての方針でございます。

以上です。

○三浦保育課長 どうでしょう。一旦いいですか。

じゃあ、次、初めての方、もし、いらっしゃれば、2回目でも結構ですけども、ご発

言される方は挙手をお願いいたします。

じゃあ、後ろの男性の方お願いします。

○参加者

よろしくをお願いいたします。

今までの保護者の方の質問や市役所の方や市長の答弁お聞きして、一番いい方法は、さくら保育園を残すことなんじゃないのかなって私は思いました。さくら保育園を廃園にするという案について、理由としては建て替えの費用がないからとかということなのかなというふうに資料とかからすると思うんですけど、世の中、あんまり僕、世の中語れるほど分かってないですけど、お金かければ手に入るものと、お金を幾らかけても手に入らないものってあると思っていて、道路を造ったり、建物を造ったりというのはある程度お金あれば造れるかなと思います。だけど、例えば野川とか、ああいう自然で手に入らないですし、あと30年も40年もベテランで保育士さんやってる方がたくさんそろってる保育園というのも、幾らお金かけてもそれは手に入らないと思います。幾らかお金かけて新規園を造って、保育士さんが10人、20人集まってきたとしても、それって30年とか40年とかかけて地域ともいい関係できてた保育園とは、それ同じ1園かもしれないですけど、中身というか、それは全く別物なんじゃないかなというふうに思います。

今、私、小学校2年生の子どもがいますけど、子が0歳のときからさくら保育園にはお世話になっていて、私、出身は横浜なんですけど、なのでちょっと妻の両親の近くに住んでるんですが。ちょっと初めての子もだということでもとても不安も多かったんですけど、最初のひよこ組の担任の先生が50代過ぎた先生で、子どももすごい安心してくれていましたし、親自身もすごく安心したという記憶が今でも残っていて。それなので、ちょっとそういうのって何か新人の保育士さんを連れてきたからっていきなりできることではないだろうなというふうに思います。

なので、ちょっとこの説明会、前回も私、参加したんですけども、何ですかね、ちょっと議論が建設的じゃないというか、どうやったらうまく廃園できるかみたいな話ばかりしているかなというふうに思っていて、何かそうじゃなく、どうやったら残せるのかなという視点で議論をしていったらいいんじゃないのかなって思います。

今回の、何でしたっけ、保育園の何か縮小に関わる説明会とかという会の名前も、多分、一生懸命考えてくださったと思うんですけど、何かすごく暗い気持ちになるタイトルだなって思っていて、何かそうですね、さくら保育園をどうやったら残せるか考える

会、説明会とか考える会とか、小金井の保育をどうやったら日本一にできるか考える会とか、そういう視点でやってもらえれば保護者とかももっと集まってくるかなって思いますし、やっぱり日本一を標榜しているんですからね、日本一だと思って引っ越してきた方もいるようなので、そういうちょっとリーダーシップを執って、小金井市民12万人を引っ張って行ってほしいなって私は思います。

ちょっと長くなっちゃってるんですけど、この資料を見ると5億円ぐらい建て替えにかかるのかなというふうに思いました。5億円を12万人で割ると1人当たり8,000円ぐらいになったんですね。それを12か月で割ると1か月300円ぐらいということになって、一人一人が1か月300円頑張れば建て替えられるのかななんて、ちょっと私あんまり詳しくないんですけどそんなふうに思いました。最低賃金1時間1,000円だから、1か月30分残業すれば保育園建て直せるのかなぐらいにちょっと思っちゃって。何かそういうちょっと建設的な議論、幾らかければできるのかな、じゃあどうやったらそのお金集められるのかなとか、そういうふうに考えてほしいなというふうに思います。

そうですね、結構、閉じていく、閉じていくというか廃園にしていく話が結構続いたんですけど、どうやったら残せるのかなという、そういう議論というのは今までされているのでしょうか。されていたら、今どこまで話が進んでいるかを教えてください。お願いします。

○西岡市長 率直なご意見、ご質問いただきまして、ありがとうございます。また、いろんな思いも聞かせていただきまして、ありがとうございました。

何度か申し上げておりますが、私、市長としては、50年近い歴史を持つ公立保育園1園でも、段階的縮小をしたり廃園したりという選択肢は取りたくない手法です。それは人間ですから当然です。好きこのんで、この方策を選んだわけではありません。しかし、この長い間の議論、また、今置かれている社会的状況、大変厳しい状況なんです。つらい決断でありますけれども、しかし、小金井市の子どもたち、未来のために今私たちが取るべき選択としては、民間移譲とかいろんなことを検討して、何パターンもいろんなものを考えて議論を積み上げてきましたけれども、公立保育園は2園は存続し、さくら、くりのみをまずは段階的縮小の後、廃園し、そして、わかたけ保育園はその後、時期は決まっておりますけれども段階的縮小から廃園を行って、最終的には公立保育園を2園運営していくと、その中で市としての役割と責任をしっかりと果たしていくとい



うことで方針案を定めさせていただきました。

お手元の資料、ホームページ等に公開している資料として、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告という資料を今、私、持っているんですが、今、資料大量にあってですね、すみません、ちょっと埋もれてしまってるんですが。こちらを保護者の皆様方もご覧になられていると思うんですね。こちらも併せて重要な資料ということで掲載させていただいております。

この中では、いろいろな方策について検討をさせていただきました。民間移譲、通常の場合、公私連携、事業団方式、そして、今、提案している段階的縮小から廃園方式、園の統合という方式や一部委託という方式で、6パターンについて検討させていただきました。

しかし、先ほど来申し上げておりますように、施設の老朽化、人材確保という難しい課題、公立保育園で保育を担っていただく人材を確保することに非常に難しい今現状があります。また、財政的な課題、民間保育園には運営も施設面でもかなりの補助が入りますが、公立保育園にはそういった支援策はないということ。そして、人口減少が見込まれる中、小金井市は来年さらに4園の新しい保育園を開設いたします。一旦ここでストップします。令和5年4月以降の新設保育園は、今現時点では予定はしておりませんが、1,700名だった保育園の定員数は4,000名近くになります。過剰な飽和状態は避けなければいけませんので、保育園の定員数ということについてもしっかりと市が判断をしていかなければいけないということ。

そして、12ページ、方針案の中に書かれている12ページには、どうしても小金井市として充実させたい保育サービスメニューがありまして、こういったものも新たに必要予算や人材を投入しなければいけないという課題がありまして、今回段階的縮小から廃園という方式を方針案としてまとめさせていただきました。

建設的な議論にしてほしい、その思いはよく拝聴させていただきます。しかし、未来のため、子どもたちのために今小金井市がやらなければいけない道としては、私はこの方針案というものを関係者の方々と相互の理解を得られるように努力をさせていただきたいと考えております。

そして、もちろん在園するお子様のことが非常に重要でございますので、卒園まで責任を持ってお預かりできる体制をしっかりと整えるとともに、先ほど冒頭からお話がありますように、令和9年、最後の年には5歳児のみになってしまいます。そういったこと

でこれまでの保育とは違った環境になってしまいますから、その環境をよりよい環境に少しでも変えていけられること、できることをしっかり保育士や保護者の方や関係者の方々と議論や協議を積み重ねながら、しっかり対応していきたいというふうに考えているところでございます。

私からの答弁は以上でございます。

○参加者 ありがとうございます。そうですね、ここまでの議論の経緯を聞かせていただき、ありがとうございます。

じゃあ、今度はちょっとシンプルに質問しますけども、どういう条件がそろったら、どういうふうにしたらさくら保育園は残るのでしょうか、教えてください。

○西岡市長 その前にちょっと教育長から。

○参加者 すみません。

○大熊教育長 先ほど2歳の子どもが入ったときにベテランの保育士さんがいて、とても安心したという話を聞いて、僕にも孫がいて、そうだろうなというふうには思いました。そこでずっと今考えていたんですけど、全ての保育園が今、異年齢保育をやってるわけじゃなくて、年齢ごとに分かれて保育をしているところもあって、どちらがいいかというのは様々な議論があると思うんですけど。この保育園が最終的に廃園になるときは、この全館を5歳児が全部使えるんですよ。そしたら、一つはアスレチックの部屋にしても面白いと思うし、一つは音楽の部屋、それから造形の部屋とかというのを、保育士さんだけではできないと思いますので、保護者の方々もいろいろお手伝いしながら、また、あるときは小学生の高学年が来てそんな場所を造ったり、特別な保育が実現できるんじゃないか、そんなことも考えさせていただきました。

そのときに大事なのは、やはり異年齢保育の子どもたちというよりは、手厚い保育士がしっかりいることなんだろうと僕は思います。その点では、この保育園にはそういう先生方、保育士さんの方々がいて、そういうことを実現するという事は可能なんだろうと。そのことで様々な保育士さんだけでやるのは難しいということがあったときに、そういうこの保育園でしかできないという保育を、学校もお手伝いさせていただくという事はそれこそわくわくする内容ですので、様々なことができるんじゃないかなというのは一つ思いましたので、付け足しさせていただきます。

○参加者 ありがとうございます。

○西岡市長 仮定の話ということでいろいろなお質問もいただきましたが、なかなか答弁の難しい

領域もありますが、先ほどのご質問の中で建て替えに約5億円ということで、そこは市民1人当たりになれば克服できるのではないかとということでいろいろ考えていただいて、ありがとうございます。

ここでお示ししているのは、園舎の建設費しか計上していないんですね。一般的に公立保育園をもしも新しい園舎に建て替えるとなった場合は、現地再整備、つまり保育園を運営しながら新しい保育園を建てることは不可能です。なので、新しい土地を買うか借りるかして、新しい園舎をそこに建てて引っ越しですね、移転。移転をするか、あるいは、仮にどこかの土地を買うか借りるかして一旦引っ越しをして、そこにプレハブを建てて、しかも保育園ですから、プレハブといってもしっかりしたものを造らなければいけません。強度、耐震性も含めてです。その間に一旦更地にして、新しい園舎を建てて戻ってくる。引っ越しが2回ですね。最低1回は引っ越しをしなければいけませんから、子どもたちにもかなりの負担にはなるのは間違いないと思います。

しかし、経費としては、プレハブを選択した場合は、土地を買うか借りるかする経費とプレハブを建てる経費はこの中に計上はされていません。また、解体の費用なども含まれておりません。あるいは、新しいところに新天地に行くにしても、大前提としては近くにいい土地がなければ移転はできなくて、土地の確保というのは、今、正直申し上げまして非常に困難です。思ったように土地が、保育園を建てられる規模や条件、道路に2面、面しているとか、建築基準法の関係が満たされているとか、実は保育園を建てるには、民間の方々も相当苦労しながら土地を探してきてるんですね。

なので、そういう前提条件としては幾つかのものがあるということをご理解いただきたいのと、新しい園舎を造る場合には、計上してるのは4.5億円ぐらいのことを一応想定していますが、実際はそれ以上に土地の手当てとかプレハブとか解体とかということで、やり方によっては変わってきますけれども、それなりのコストがさらに計上することにはなるということは、ちょっと事務的なお話なんですけども一応申し上げておきたいと思います。

○参加者            ありがとうございます。

○平岡保育政策担当課長    ちょっと話すと長くなるんで、申し訳ありません。先ほどどういう条件がそろったらというお話をしていたかと思います。ちょっと皆さんにとってはあまり聞きたくない話なのかもしれないんですけども、平成9年にスタートしたときというのは、小金井の中で、いわゆる行財政改革といって、シンプルに言うと職員の数がとても多か

った。時期を前後して退職金がもしかしたら払えないかもしれないというところまで実は小金井市、行きまして、それで改革をしないといけないというのは、ほかの自治体もやってたんですけれども、小金井も始めたというところがあります。

それで、保育園がピンポイントだったわけではなくて、全ての職場に目が行ったというところがあります。その中で、民間でも事業をできているところというのは、申し訳ないんですけど、並べると、やはり市役所がどうしてもやらなきゃいけないというところからすると、やはりちょっと、何というんですかね、ビハインドなところがどうしても出てしまうところがあるんですが、昔はそんなにダイナミックな話は少なくて、職員の中で非正規の方で入れ換えるところはできないかというお話が多分あったと思います。

なので、私はそれより若干前に入所してるんですけれども、保育園、昔は用務員さんも正規だったんですよ。今は正規でない方だと思いますけれども、そういったところから手をつけていっているかなと思います。

ほかの事業については、完全に民間さんをお願いしているものの中には小金井あると思うんですが、保育園だけはそのぐらいのところで止まっていたという状況があります。そのうちに国から運営費が、公立の場合は出せないと、直接きちんと出せないとというような話が平成16年頃に来ました。今度は建て替え、老朽化というところがありましたけれども、ほかの施設も含めて、学校も含めて老朽化が進んでいて、全体どうするかというやはり問題も出てきてしまってるというところがあります。

ですので、さくらを残すための検討をしたのかということなんですが、こちらとしては最初からダイナミックにかじを切るのではなくて、できる中でやってきた、運営してきたんですけれども、ここに来てこれ以上は先々のことも考えると難しいというのが一つあったというのは事実です。

ただ、おっしゃるとおり子どもさんのこと、保育の質のこと、様々な視点もあるかとは思いますが、発端として始まったところから考えると、そういった段階も踏んできてということはあるということだけはお伝えさせていただきます。

○参加者

ありがとうございます。そうですね、ちょっといろいろ情報が多かったので、私も今、すみません、うまく消化できてないかもしれないんですけど、人材確保が難しく、今難しい情勢ですというのをお聞きしたんですが、ちょっと私の感覚だと、さくら保育園なくしちゃったりすると余計難しくなるんじゃないかなというふうに考えていて、人材って1人入って連れてきて、その人いきなり使える人材、優秀な人材にはならないと思う

んですよ。連れてきて、さっき言ったみたいに30年とか40年とか働いて、それでやっと何かすごい立派な保育士さんになると思うんです。なので、さくら保育園ってそういう方がすごいそろっているなというふうに思って、そういう方って、同じように子どもに接してるようでもいろんなことに気づいてくれたりしますし、何か1人ひょいって連れてきたのとは全然訳が違う、かけがえのないものかなというふうに思います。

そういう人を育てられる場所というか、そういうところがさくら保育園なんじゃないのかなって思いますので、ちょっと人材確保したいのなら、本当にむしろこういうベテランの園というのが長く続いてて、保育実績がたくさんある園というのを潰しちゃいけないんじゃないのかなと私は思います。

それから、建て替えに5億円以上、もっとも金額がかかりますよというお話ですが、建て替えるのに土地を借りたりとか、さらに追加で予算がかかるんですよというのを理解いたしました。

ただ、それでまた思ったのが、そうするとさくら保育園だけではなくてほかの保育園、もちろん民間も含めてですけど、いつかは建物古くなって行って建て替えなきゃいけないわけですから、建て替え方はうまく確立できているというか、上手な建て替え方というのは編み出さないと、どの保育園もあと何年かしたら全部潰れてっちゃうという話になっちゃうので、それこそ今やることなんじゃないのかなというふうに私は思いました。

さくら保育園でうまく建て替えられましたよというモデルをつくるというのでも、そういう考え方もできるんじゃないのかなというふうに思いました。

あと、教育長さんがおっしゃってたみたいに、やっぱり保育士さんがいろんないい保育をするというのが私も一番大事だと思っていて、なので、私ちょっと段階的縮小というよりも、前の廃園という自体でちょっと私は違うかなとってるので、段階的保育のところでいい保育をするというのもちょっと、何というんですかね、あんまり賛成ではないんですが、ただ、保育士さんの力がすごく大事というのは意見を共有できたのでよかったかなと思っています。

ちょっとお願いが、たくさんしてしまったんですが、どうぞよろしく願いいたします。

○三浦保育課長　じゃあ、一旦いいですか。

○参加者　はい。

○三浦保育課長 そのほか、いかがでしょうか。

○参加者 令和4年度4月の入園希望者数、全園で全クラスというものの提示って、いつ頃できますか。

○三浦保育課長 ほかに何かご質問ありますか。

○参加者 あるんですけど、ちょっとずつじゃないと分かんなくなっちゃうので。

○平岡保育政策担当課長 すみません、希望者数なんですけれども、今、書類の関係で調整をさせていただいておまして、数としてちょっと公表する時期というのを今にわかにはこちらのほうで持ち合わせていないんですが、昨年とほぼ同じスケジュールでやらせていただいているので、昨年公表させていただいた時期とちょっと同じ時期ぐらいではないかなというふうには思っております。

○大澤子ども家庭部長 例年でいきますと、1月下旬という形で公表させていただいているというところですよ。

○参加者 待機児童数が減ったと言っていたので、できたら早めに知りたいなと、今年度。見送った方もコロナでいらっしゃると思いますし、その辺は結構早めに知りたいので、できたらちょっと頑張っていただきたいなと思います。

次なんですけれども、先ほど最後の年の子どもたちがこの部屋全部使える、アスレチックにしたら楽しいと思うって。確かに楽しいとは思いますが、この広いところを毎日管理するのは保育士の方であって、使う部屋を減らしていかないと管理はできなくなる。危険が子どもに及ぶ。なら継続してさくら保育園があったほうがいいのかなどは思いますし、さくら保育園、私、第1子が0歳児で今さくら保育園が初めてなんですけど、このことだけではなく、子に関わる保護者のサポート、ケア、すごいしてくださって、とても安心して預けられるところだなって思っております。

第1子を授かったときに、子育てするために小金井市に引っ越してきて、廃園の問題が8月に出て、ちょっと後悔しました。何でここに引っ越しちゃったかなとか、子育てのために来たのにな。現状、私、今、第2子を授かっているところなんですけれども、それに令和4年は入園できるけど、今現状、授かってたら、次の子はさくら保育園に入れられないんですよ。市から、もう入れられないよって言われちゃって、個人的にはやっぱり同じ園で保育をお願いしたかったし、職場との行き来も考えての引っ越しだったので、できたら第2子、第3子を受け入れていくというのも考えていただきたいなと思います。

廃園ではなくて、一回段階縮小をしていって閉園にして建て替えるという案も一個手じゃないのかなとも思います。その辺はどう思いますか。

○西岡市長 子育てやお仕事の関係も含めて、特に子育ての面を考えて小金井市にお住まいになっていただいたということは、市長としては本当にうれしいことですし、とてもありがたいことですし、感謝しております。

市長としてはそういうご期待にしっかり応えていくためにも、引き続き、子育て・子育て・教育環境の向上にこれからも全力を尽くしてまいりたいと改めて申し上げたいと思います。

しかし、その中であって50年近くたつ公立保育園2園、そして、わかたけ保育園含めて3園につきましては、段階的縮小の後に廃園、そして公立保育園を2園存続していく。そして、公立、民間含めて保育全体の保育行政、保育全体の向上にしっかり努めていくのが責任だと考えております。

これからもずっとさくら保育園で将来のお子様をぜひ預けたいということや、さくら保育園で頑張っている保育士さんに、前質問者の方も含めてですが、高いご評価をいただいていることは感謝を申し上げますし、市長といたしましても、公立保育園で頑張っている保育士の皆さんが市民の皆様方、保護者の方々からご評価いただいているということは大変誇りに思います。本当に奮闘していただいている保育士さんにも感謝を申し上げたいと率直に思います。

しかしながら、将来の小金井市の保育行政や市政全体のことをやっぱり、市長としてはどうしても考えなければいけないということも、どうかご理解いただきたいと思えます。

先ほど一度段階的縮小を行って廃園、閉園をして、そこで一旦更地にして建て替える、こういうことはいかがでしょうかというご提案をいただきました。ありがとうございます。令和10年3月31日に、この方針案に基づきますと廃園をし、令和10年4月1日からは、わかたけ含めて3園の公立保育園の体制で運営を開始する計画となっております。

申し上げますと、令和10年といいますとかなり、年少人口のピークは今の予測を過ぎていて、もう緩やかな減少傾向が始まっている。小金井市では、既に0歳児の人口が少しずつ減少してきてはいます。コロナのことも踏まえなければいけませんけれども。そして、民間保育園も含めて、かなり保育園の開設状況や保育定員数というのは充足し

つつある。これがあまりにも過剰な飽和状態になってしまいますと、至るところの保育園で空きが出てしまって、経営が圧迫されてしまう。この状況は避けなければいけないと思っているんですね。したがって、今のままの保育の計画、保育定員数の計画をよくよく考えてみますと、その時点でさらに公立保育園を建て替えて新しい、新しいというか、さくら保育園を建て替えて保育園を運営していくということになると、結果的な人材の確保の困難さは今と変わらない。それから、財政面でも、国や東京都からの補助がソフト、ハードともに支援策を得られないということには、これは変わらない今の現状でありますので、そういう状況を考えますと、なかなか難しいご提案だなというふうにお答えさせていただきたいと思います。申し訳ございません。

○大熊教育長　　今話を聞いていて、ちょっと皆さんにはあまりなじみのない話かもしれないんですけど、小金井の小・中学校の話をさせていただきたいと思います。

小金井は、子どもたちが落ち着いていて、先ほども言われましたように高い学力を保っているということ、それから交通の便がいいということで、先生方というのは2校経験すると、3校目は行く地域を選べるという特権があるんですね。それで、小金井市は小金井を選ぶ先生方の数が非常に多いんです。いわゆるベテランの先生が他地区から移動するときに、実は小金井は先生を選べる数少ない市の一つなんです。ですから、ベテランの先生が異動するときに選ばれる市としてあるということは、やはりそれだけ教育を担保できるという、その辺は自信を持ってお答えしたいと思いますので、小学校のときに、今、若い先生も増えてることは事実ですけど、しっかりとした先生が小金井の先生をやっているということも併せて報告させていただきたいと思います。以上です。

○三浦保育課長　　続けて何かご質問があれば。

○参加者　　結局、第2子の受入れ等を検討することはないということで大丈夫ですか。

○平岡保育政策担当課長　　そうですね、今こちらのほうで示させている内容どおりかせていただくとすれば、令和5年の4月での0歳児の募集というのは、さくら保育園はしないというプランになっておりますので、その年齢とタイミングが合っているということであれば、受入れはしないというプランになっているというお答えになります。

すみません、今のでお答えになっていましたでしょうか。

○参加者　　そうですね、そしたら在園児に兄弟がいる場合、第2子保育園料は半額というのが書いてあると思うんですけど、じゃあその場合、第2子が保育ママさんになってしまいま



したという場合、市の都合で半額ではなく減額扱いになるのか、第2子は同園という形で半額扱いになるのか、その辺はどうなるのか教えていただきたいです。

○平岡保育政策担当課長 今、保育料の話ということでいいですか。

○参加者 保育料の話にしていただけたら助かります。

○平岡保育政策担当課長 すみません。事務局の方でお答えします。

○事務局 保育ママさんだと認可保育園ではなくて認可外保育園になるので、第2子の方については扱いがちょっと変わってくる形となります。もともと保育料ではなくて、保育料に対する助成金、施設等利用給付という無償化に関連する補助金みたいなものなんですけど、それは第2子の方だと補助金額は上がる形になります。

なので、第1子だと助成金が、第1子は4万円なんですけども、第2子だと5万4,000円という形で給付金が上がるような対応になっています。保育ママだとそういう形です。

認可に入れた場合は、同じ保育園であろうが、同じ保育園でなかろうが、第2子は同じ扱いとなり、半額となります。

○参加者 そしたら、ほかの質問してもいいですか。結構説明会を重ねてきたと思うんですけど、今回の説明会、これ以降の説明会で市はどんな質疑が来るのかということと、どういう回答をするかというのは考えていたのかなというのがちょっと気になって、どんな質疑が来るのかというのは考えていたかどうか、ちょっと教えていただけたらうれしいです。

○平岡保育政策担当課長 こちらのほうとしては前回、冒頭お話しさせていただいたとおり、前回でご質問、ご意見をいただく時間が不足されているという状況もお話もいただきましたので、開催をさせていただいているという状況がありましたので、前回いただいていることについて、ほかの方から同じご質問が出ることはあるかなとは思っておりましたが、新しい内容として何かというふうに事前に何か想定して臨んだというようなところは特にございませぬので、今ご質問していただいた、とても具体的なお話からもっと大きなお話から様々あるのではないかとこの程度の認識で臨んでおります。

○参加者 では、検討するという方針が多かったと思うんですけども、それで判断して、そのまま市長の考えでこのまま説明会を終わらせて進めていくというのはちょっとあまりにもずさんかなと思うので、何度かこういう説明会の場をやっぱりつくっていただけたらうれしいなと思います。

○三浦保育課長 よろしいですか、一回。

○西岡市長       ありがとうございます。

○三浦保育課長   すみません。

                  ちょっと15分ぐらい前の予定ですけども、では、一番後ろの女性の方。

○参加者       すみません、2回目なんですけども、最初に確認すればよかったですけど、今回の説明会の目的について、端的に教えてください。前回答弁できなかった内容に対して適切な回答が出されるのかなと思って私は出席しているんですけども、そういった説明がなかったです。

                  それから、前回の答弁と同じような内容が出てきていて、会の進行の仕方に関して答弁が長いというような司会の方のお話がありましたが、それに関して是正されているようには見えません。

                  今回、市から保護者宛てに出されたお知らせでは、新たなご要望やご意見をお聞きするほうに重きを置くというふうに書かれていたんですね。一方で、市は以前からこの案のまま進めていくというふうに言っているんです。

                  結局、保護者宛てに出されたお知らせと何か市の言ってることとがかみ合っていないので、何かどっちなのかなというのがまず分かりません。この場でどちらの姿勢を取るのかということは明示してください。

                  この場で出された意見や要望が今後、市の市政に取り入れられていくのかどうかについて教えてください。もし取り入れられないのであれば、説明会をして意見を聞く意味というのはどこにあるのかなと思います。

                  それから、再質問というか、前回の質問で出されていない、答弁が出されていないものについて、今質問してもよろしいでしょうか。ちょっと長くなってしまうのでどうしようかなと思ったんですけど、よろしいですか。

                  じゃあ、再質問のものから整理して質問をさせていただきます。

                  前回、子どもへの具体的なケアの方法について私から質問をさせていただきました。持ち帰って検討するという回答でした。

                  研究とか実際の他市の事例では、子どもへの認知発達、それから、社会的発達の面で影響が出たということが明らかになっています。さくら保育園の担当の小児科医に話を聞きましたけども、廃園案はご存じないということでした。ということは、医療面からのケアを市が検討しているとは考えられませんので、持ち帰って検討した結果、どのようなケアの方法が出されたのかを教えてください。

子どもへの影響について、2点目ですけれども、以前、保育政策担当課長が、廃園は子どもにとって影響があるというのは私たちも認識しているというふうに答弁されていました。答弁の中では、異年齢保育ができなくなるということが上げられていましたけれども、それ以外に子どもの視点に立ったときにどのような影響があると認識されていますでしょうか。

子どもへの影響について3点目です。これ再質問ですが、前回のさくら保育園の説明会で保護者より、周辺の市町村で廃園したときに子どもへの影響が出たかどうかきちんと調査しましたかという質問がありました。調査した上で子どもに影響が少ないとおっしゃっていますかという質問がありましたが、答弁がありませんでしたので再質問をさせていただきます。

民間園の撤退リスクについてです。これは私が質問したんですけども、認可とか認証とか運営形態にはこだわらずに、民間園が公立園とは違って撤退する可能性があるということを前提に質問を行います。

10月に出された修正案では、民間保育所の撤退等のリスクを回避するため保育定員の適正化は課題と明記されておりますので、市が民間保育所が撤退するリスクがあるということは認識されていることが明らかです。そこで、前回では、小金井市で撤退を防ぐための手だてとして民間園に課してる条件はありますかというふうに質問をさせていただきました。答弁がなかったのでお願いします。

まだあるんですけど、続けていっちゃっていいのでしょうか。ありがとうございます。

これも再質問ですが、子どもが感じる不安について前回質問がありました。職員の不安は子どもが感じ取るのではないですかという質問に対して、市長が重く受け止めたいというふうに答弁されていましたが、具体的な内容が分かりませんので、重く受け止めた結果どのように考えられたのかを教えてください。

次です。市全体の保育の質向上について先ほど質問者が質問をされましたけれども、それについて前回は、外部評価の受審を促すというふうに答弁されているんですけども、どのような機関を想定されているのでしょうか。

それから、評価の時期はいつを想定されておりますでしょうか、教えてください。

それから、現場の職員の声を聞いてますかという質問が前回上げられました。市長が重く受け止めたいですというふうに答弁されておられました。重く受け止めた結果はどうなったのでしょうか。現場の職員の意見とか考えとかを聞く機会は、これまで1か月の

間にありましたでしょうか。また、今後、設けるつもりはありますでしょうか。

次です。前回、クラウドファンディングは考えてますかという質問が出されました。それに対して市長は、市政全体の話はされていますけれども、クラウドファンディングを保育園の建て替えに関して取り入れるかどうか、検討したかどうかとも答弁されていませんでしたので、そこを答弁をお願いいたします。

保育の質向上に関しては、前回の説明会でも、市民説明会でも、くりのみとかわかたけとかでも再三出ています。保護者が心配してる保育の質というのは、手作りの給食があるとか、ベテラン保育士さんがたくさんいるとか、子どもが安心して遊べる園庭があるとかいう環境だと思うんですね。市の答弁でガイドラインとかというのが何度も出てくるんですけども、私もガイドライン読ませていただきましたが、そこに保護者が心配してる内容、補充できる内容というのが出ていません。

それから、説明会の答弁でも具体性が非常に欠けているので、廃園をするのであれば、本当にするのであれば、もう少し具体性を持って答弁する必要があるのではないのでしょうか。保護者の質問に答えられていないので、保護者の質問に答えられる答弁を用意してから説明会を開くというのが誠意ある対応だと私は思います。

最後ですが、財政難というお話が何度も出てきていますし、先ほどの質問者からも出しましたが、財政難の割には住民票がある人に地域応援券というのを配ってますよね。それから、市庁舎建設については、当初予算は84億円でしたよね。それ今116億円になっていて、単純に32億円オーバーしてるんですね。市庁舎には32億計上して、保育園5億円は出せませんというのは、財政難とは言えないんじゃないでしょうかね。保育園廃園とは関係ないという答弁が、お金の使い道が違うという答弁が出てきそうなんですけども、収入って決まっているので、どの分野に、どれだけお金を配分するかということに問題があると私は思います。少ない収入だからこそ、市民が納得できるサービスにお金を使うべきです。一過性の政策にすぎないような地域応援券なんていうものを配って、保育園建て替えにはお金がないんですと、苦しいんですと言われても、少なくとも保護者の立場では、そうなんですととは言えません。

少し長くなりましたが、端的に、時間がないようですので答弁をお願いします。特に説明会の目的について、目的がきちんとしていないのであれば参加する必要はないですし、開催する意味はありませんので、きちんと答弁をしてください。

○平岡保育政策担当課長 では、すみません、多くいただきましたので漏れていたら、飛ばすつもりは

ありませんので、ご指摘をいただければ漏れているところはお答えしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いいたします。

まず、今言われた説明会ですけれども、冒頭、市長が申し上げたとおりの形で考えておりますので、前回聞き切れなかった部分を聞きたいという気持ちと、前回は資料説明でそれなりに時間をいただいてしまいましたので、その分を割愛して、市長挨拶もなるべく短くさせていただき、ご意見を聞く時間を持たせていただいたというところです。それに対して答弁が長かったというところについては、今回も反省材料かなと思っております。

飛んでいたら申し訳ございません。

お子さんの影響のところですが、こちらのほうで持ち帰って検討するというようなお答えをした部分があったというお話でございますけれども、結論から申し上げますと、検討している結果というのは出ておりません。園の職員とも相談をしながら、どういう対応ができるかも含めて検討していかなければいけないというふうに思っておりますが、現時点で結果は出ていないというお答えになるかなというふうに思います。

それから、周辺市の影響、状況ということですが、こちらのほうで東久留米市のほうに改めて確認はさせていただきましたけれども、特段影響があったというような認識では、先方の市さんではなかったというふうな確認をしております。

それから、民間の撤退リスクの部分でございますが、課している条件というのは市として特にございません。

それから、子どもが感じる不安について、どう受け止めていくかというところでございますけれども、これについて今後どういうことが対応できるかについては、冒頭、市長からもお話しさせていただいたとおり、やはり現場の方の協力は不可欠ですので、現場の方々とも引き続き相談をしながら、できる限りのことをやっていきたいという状況は変わりありません。

それから、外部評価の件でございますけれども、こちらはいわゆる制度化されている第三者評価という制度が保育園にもございますので、3年に1回は外部の指定された評価機関から評価を受けなければいけないことになっておりますので、こちらのことをご説明させていただいたと思っております。

それから、現場の声というところでございますけれども、現場との話は今後とも続けていくことになるかなと思っておりますけれども、市の方向性としてこういう形で示さ

せていただいたというところがございますので、これに向かっていくに当たってどのようなことができいくかというところについては、今後もお話を現場としていきたいというふうに思っております。

それから、クラウドファンディングの部分ですが、検討したかどうかという点についてお答えさせていただくと、クラウドファンディングに係る検討は行ってはおりません。

それから、園庭、自園調理、経験ある保育士といった部分について、質として高いというふうに保護者の方は思っているけれども、ガイドラインにはそういうところが触れていないというところがございました。これについては、そういった様々な環境の中でどのように質を上げていくかという観点から、ガイドラインについてはあえて内容を狭くするものではなくて、広い視点から様々な内容で検討していけるような、そういうようなつくりにしたつもりであります。

ですので、今おっしゃっているような内容を記載することによって自園調理をしなければいけないというような目標を課すことになったり、園庭がなければいけないというようなことにもなりますので、そういうような状況がない中でどういうことができるかなども含めて質を上げていくためには、今あるそれぞれの環境の中で検討していただく必要があると思いますので、そのようなガイドラインにさせていただいているというふうなお答えになるかなと思います。

一旦、私のほうからは以上です。

○西岡市長

引き続き、私のほうから補足でご答弁をさせていただきます。

現場の職員等の声などですが、今般、方針案を策定するに当たっては、一応、職員組合と労使合意というものを行わせていただいて、説明会などには臨ませていただいております。市の場合は、職員の職場環境の様々な変更やこういった体制面については労使合意を図ることになっておりまして、その労使合意を通じて、かなり丁寧に職員の方々からの現場の声は聞かせていただいているし、これからも保育課を通じて、あるいは適切な場面を通じて、職員の方々の声については、しっかり把握をしてみたいと思っております。

クラウドファンディング、まだ市としては正式な検討はしてはおりませんが、市長として持ち帰ったところでもあります。しかし、建て替え面などについては、先ほどもお話をしたように4億5,000万ぐらいは平均的に1園かかり、さらにプレハブや代替地の確保や土地を求めるということになりますとさらに経費がかかりますから、二つ合わせ

ると約10億円以上というものがざっくりと見えてくるわけです。それだけの金額をクラウドファンディングで集められるかという、私は非常に難しいのではないかなと考えます。

それから、先ほど地域応援券、新型コロナウイルス感染拡大による事業者支援と市民の皆様方に、全市民の方々12万4,000人の方々に、決して大きい金額ではありませんが、2,500円の地域応援券を発行いたしました。こちらは無駄ではないかというご意見をいただきました。

また、新庁舎建設においては84.4億円が32億円増えるというお話があったんですが、もうちょっとこれ正確に申し上げますと、基本設計のときに84.4億円と試算した建設費です。建設コストが90.7億円なので、約6億円の増となりました。これは物価上昇分とか、それから、新たに必ずやらなければいけない浸水対策ですね、こういったものを含めて、そして増えた分もあればコストダウンを図ったものもありまして、約1億7,000万円。結果としては84.4億円の経費が建設コストが90.7億円になりましたので、総事業費のほうも連動してプラス6億円ということになったものがございます。

なお、私は地域応援券や、この間、新型コロナウイルスの感染症対策に関しましては、事業者支援、国や東京都の補助事業も活用しながら全力で行ってまいりましたが、今般の地域応援券も非常に苦しい思いをしている事業者の方や、市民生活を少しでもお支えしたいということで取り組んだものです。総額3億6,000万円の事業費になっているんですけども、そのうちの、正確な数字は今ちょっと申し上げられないんですが、8割ぐらいは国や東京都などの、いわゆる補助金といいたいでしょうか、臨時交付金というのがあるんですね、コロナ対策の。こちらを活用してこの地域応援券の事業は取り組ませていただいていますので、全てを一財でやっているというわけではなく、全体の約2割ぐらいが小金井市からの持ち出しにはなっていますが、国や東京都からの交付金などを最大限活用して行っているということでご答弁をさせていただきます。

なお、庁舎問題は長い間、こちらも小金井市の課題となっています。平成5年に119億円というような巨額の財源を投入して、平成5年に1万1,000平米の庁舎建設予定地を購入しました。しかし、30年近くたっても、今なおその目的が達成できていないのが小金井市です。そして、庁舎を建てる代わりに賃借庁舎を借りてきました。当初は10年から15年と想定されていたところ、今28年間ずっと借り続けていて、賃

料に支払った総額は約70億円近くです。こういった状況もこれ必ず改善しなければいけないし、防災の拠点、福祉の拠点、地域の拠点、小金井市が目指している庁舎は、庁舎だけではなくて、福祉会館という建物との複合施設を目指してございます。この庁舎建設は庁舎建設の課題として、こちらは必ず、こちらも課題を解決しなければいけないテーマであり、防災の拠点ですから、市民の皆様方の命を守るためにも欠かすことができないのが新庁舎、（仮称）新福祉会館の建設事業であるということは、どうかご理解を賜りたいと存じます。

○平岡保育政策担当課長 すみません、最初のほうに質問していただいたものを大分飛ばしてしまったのではないかと考えております。

まず、これまで出た説明会への意見、要望などについてはどのような形で回答がなされるのか、また、どこでどう反映されるのかというお話があったと思います。私たちとしても、その時点で回答できるものについては回答させていただいています。それが保護者の方にとって回答になっていないというご意見もいただいているところですが、現時点でお答えできることはお答えしているというふうに市のほうでは認識しております。

その上で、こちらのほうでさらにお答えをさせていただくような状況とすれば、ホームページへの掲載ですとか、今回示させていただく方針案について、さらに修正を加えていくタイミングで、いただいた意見の中から反映できるものについては反映していくというようなお答えになるかなと思います。

その時期がいつになるのかについては、今回の2回目といいますか、今やっている説明会が終わってからどうしていくかというのを考えることになるかなというふうに思っております。

それから、子どもの影響について、異年齢保育ができなくなる以外に何か私のほうで考えているところがあるかというところでもありますけれども、率直にお答えさせていただきますね。正直申し上げて、簡単に臆測でこうなったらどうなるというようなものが浮かぶものではないと思っています。ただ、今ある日常といいますか、さくら保育園である日常と状況が変わることによって影響を受けることは、どれでも可能性はあると思っています。ただ、先ほどの答弁の中でも差し上げたとおりなんですけれども、それが起きたことによって起きているかどうかについての正式な研究結果というのをちょっと私のほうでいまだに確認できておりません。ですが、それをもって影響がないと言い切るのはちょっと乱暴だなと思っておりますので影響はあるというふうに言わせてい



いただいておりますが、それがどうつながってどうかというところについては、私としても明確なお答えをさせていただくのは正直難しいというふうに思っておりますけれども、そういったこと全体を含めて影響がないとは言えないというふうに考えております。

全部答えましたか。まだ足りないのあったら言ってもらえますか。

○参加者

ちょっといっぱいある。私がいっぱい質問したんであれなんですけど。

最後の子どもへの影響ということですけども、こちらの論文には3歳までに生活保育面、保育園なり幼稚園なりの日常生活で環境に変化があった場合、認知的な発達にネガティブな影響が見られたということが研究で示されていますので、私はこれを読んで質問をさせていただいております。

説明会の目的は、今後、市政に取り入れられるんですかどうですかというところはちょっと明確な答弁がありませんでしたので、今回の説明会、あるいは前回の説明会の開催の目的というのがどこにあるのかなというのが、ちょっと申し訳ない、私だけかもしれませんが、よく分かりませんでした。

一番最初に質問をした子どもへの影響についてですけども、前回は説明をしたんですが、臨床心理士として私は資格を持っているんですが、廃園になるのであれば恐らくというか、確実に子どもには影響が出ます。廃園案というのを出してくるのであれば、子どもにしかも影響があるということを認識されているのであれば、ここは今、具体的な検討結果がありませんでは済まないんですよ。だって、小児科医はこの廃園案すらご存じないんですよ。そしたら、医療的なケアは子どもたちは受けられないわけですよ。さくら保育園の子が何かあったときに、身体測定でもそうですけど、お休みした子は久慈医院というところに行きます。でも、その久慈医院の小児科医の小林先生はご存じないんです。

ということは、市が影響があったときに何らかのケアをしてくださいと依頼をしていないということですよ。廃園案が進んでいったときに、子どもに影響が出てからあたふたするということでしょうか。それでは遅過ぎます。子どもは大人と違って言葉が話せませんので、大人が何となくもやもやしているという段階をすっ飛んで、いきなりおなかが痛いとか出てくるわけですよ。そのときに、じゃあどうしましょうか、お薬飲ませましょうかとかかなっても、薬で治る問題ではないですよ。しかも、こちらの研究結果にあるように、発達面、認知面に影響があるということが分かっているので私は質問してるんです。

この質問を考えるのに、論文を6本以上読んでます。英語の論文も読んでます。私は説明会に出席するために2か月以上時間をかけてやってきてるんですけども、前回の説明会でも何か内容にそこがある部分があって、何かどっちが市の姿勢なのかなというのが分からないところもありました。今回も質問に対して答弁が用意できないのであれば、保護者から要望があったからやりますというのはちょっと違うんじゃないでしょうか。少なくとも前回出された質問に関しては、きちんと責任を持って答弁をするのが市の姿勢ではないでしょうか。

くりのみの説明会の答弁も読んでんですけど、経験年数が保育の質に直結するという認識はないというふうに答弁されているんですけど、今日ちょっと論文持ってきてないんですけども、保育士の経験年数と保育の質って有意な差があるということが明らかになってるんですよ。経験年数が保育の質に直結するという認識はないというのは、どこから得られたものですか。この廃園案って、何百人という人間の人生がかかっているんですよ。そこをきちんと認識して説明会をされていますか。何か説明会6回やったからいいよねとか、説明したよねみたいな、ホームページで載せましたし読んでいてねというのは、ちょっと違うんじゃないですかね。

先ほどの答弁も、何か具体性が非常にないなって私は思うし、あと市長が、今日の答弁もそうなんですけど、巡回保育支援チームですかね、新しくできる。それについて何としても拡充したいというふうに述べてるんですけど、一般的な巡回というのはコンサルテーションが目的で行われますよね。コンサルテーションは大丈夫ですか。立場が違う人がお互いに対等な立場で助言や情報共有を行うことで、例えば子どもであれば、子どもに対して別の支援方法が検討できたり別の視点からその子を理解することにつながるのがコンサルテーションなんですけど、市の資料を読むのと今回の答弁を聞いてると、保育士が保育士のところに行って情報共有なり指導助言を行うということですよ。そうすると、コンサルタントという立場で保育士が関わるわけではないんですよ。ということになると、一般的に日本全国で行われている巡回というのはコンサルテーションを目的に行われている。そういうところとは別の目的で行うということですよ。

何としても拡充したいのであれば、当然その事業には目的があるはずですし、巡回させる保育士にはどういう立場で巡回をするのかということを示さなければ、行って、ただ話してきてねということになりかねないですよ。この事業の目的は何でしょうか。保育士はどういう立場で行くのでしょうか。コンサルタントではないのだから、どうい

う立場ですか。

多分ここでは答弁できないと思いますので、これで説明会終わりということはありません。少なくとも、子どもにどう影響があるのか。影響があることは認識されているんだから、そして、私がこの前質問をして、こういう影響が出るんですよという情報を開示したのだから、それに対して、じゃあ市としてどういうふうにケアをしていきましょうということは検討しなきゃいけないんじゃないですか。それとも、廃園案だけは出しといて、子どもに影響あるけど、じゃあ保育士やってね、保護者がやってねということですか。それはあり得ないですよ。

はい、そうですねとおっしゃっていただいているので、説明会3回目やっていただくことは必要だと思います。子どもに影響はあるということを知っているのだから、それに対して、じゃあ影響が出たときにどうするかを考えなければ、これは危ないんじゃないですか、進めたら。だって、認知的発達に影響があるってどういうことか分かりますか。脳に影響が出るということですよ。脳にはある程度の可塑性があるというふうに言われてますけども、子どもの頃に脳に大きな影響があるというのは、これは非常にダメージの大きいことですよ。

それを私は前回指摘したんですけど、今回お手紙を頂いて、答えられなかったものについてお答えしますということだったんで出たんですけど、一体この説明会は何の目的で開かれているのでしょうか。市は答弁しますというふうに言っているけど、前回の質問に対する答弁は全然ないじゃないですか。最初さらっと資料説明して、では質疑応答ですですよ。何かお手紙に書いていらっしゃることとやってることも違う。何か市の言ってることは、どれが本当なのかがよく分からないので、もう質問はやめますけども、時間もないので。このまま終わりというのは、私は、少なくとも私は受け入れられない。ほかの方もうなずいていらっしゃいますけど、ちょっとそこは考えてください。これだけで市長がぼんと結論を出すというのは、あり得ないんじゃないでしょうか。

以上です。

○三浦保育課長 すみません、ちょっと時間を過ぎていて…。

この後、まだ皆さんご質問があるというか、発言を予定されている方いらっしゃいますか。

○平岡保育政策担当課長 すみません。まず園医との連携の部分ですけれども、その点については、こちらのほうでもご相談はしていきたいなというふうに思っております。

それから、巡回の部分ですけれども、おっしゃっておるとおり、システマチックな何かを考えているという状況ではないのと、もし前回ご説明していたら恐縮なんですけど、保育分野でよくある巡回というのは、いわゆる特別な配慮が必要なお子さんに対して保育園での生活をどうしていくか、お子さんの発達面でどういうサポートができるかということに対して、そういった分野の方が巡回で相談に行ってしまうようなケースが多いかなというふうに思っています。

私たちのほうで今考えているのは、おっしゃってるとおり、同じ保育士という資格の中で経験の差であったり、そういった部分から保育士、経験のある保育士が現場に行つて、顔つなぎから始まり、連携をしていったりですとか、必要に応じては相談、助言を受けられるような、そういうような関係性を、資格職の方として構築していただいたい、そういう視点が今回の巡回の中には一番大きいかなというふうに思っています。

ただ単に、いわゆる指導検査のような形でチェックして回るような立ち位置に立ってほしくないとは思ってまして、同じ保育士という立場でそういう業務を担ってほしいということで、今回この巡回については考えさせていただいたというところはございます。

○西岡市長 今、担当からもご答弁がありましたけど、園医との情報共有は、これしっかり図らせて、まずいただきたいと思います。

それから、子どもたちの発達に関係するところで申し上げれば、小金井市には児童発達支援センターきらりがございますので、専門的知見を持つての方々もいらっしやいます。保育全体のために、そちらのほうのきらりの側の巡回チームもスタートいたしまして、民間保育園との連携も取らせていただいているところですが、同じ公立、市が運営してる分野であるということもありますから、児童発達支援センターきらりが持つてる知見や経験というものも生かせるものは、ぜひ生かしていきたいというふうに本日はご答弁させていただきたいと思います。

ちょっと専門的な立場から、教育長のほうから少し補足をさせていただきます。

○大熊教育長 私も初めて聞いたんですけど、認知発達の影響がある。廃園をすることによって認知発達の影響があるということを初めて聞きました。想像し得るに、廃園という状況がどういう廃園であったか。例えば廃園にもいろいろありますよね。いわゆる民間保育園がいきなり、あしたからもうやりませんよという廃園もあるし、今回のように段階的にやっていく。最終的には多分手厚くなるだろうということの一つ一つを考えていった場

合と、いきなり廃園になった場合と、どういうことで廃園になったか分からないので、その辺のところをしっかりと調べる必要があると思うんですよ。

いきなり廃園ということを考えた場合には、やっぱり子どもたちが喪失感というのが多くなって、その喪失感と言われるようなものは、認知発達に影響があるというふうに考えてもいいと思うんですけど、段階的縮小ということを考えていった場合には段階的に手厚くなっていくわけですから、すぐに喪失感があるということは僕は考えられません、そういう意味では。

そういう形でやっていきたいと思いますので、僕も専門的な立場から、そういうことがあれば重大な事案ですので、論文等を教えていただいてそういうことがないように配慮できるように、今プロジェクトチーム組んでおりますので、私もそれに参加させていただきたいと、そんなふうに思うところです。

それから、巡回もプロジェクトチームに入っておりますので、コンサルテーションという、どういうふうにして巡回するのかというのは、今、教育相談の中ではそれは当然のことですので、どういうふうにしたらいいかというのはプロジェクトチームの中で僕もアドバイスをしながらですね、いきなり他の保育園に行って指導方法が違うなんて言ったって受け入れてもらえるわけじゃありませんので、やっぱりコンサルテーションという形が当然、行われなければ保育の質の向上には認めませんので、その辺のところはしっかり私も把握させていただいて、プロジェクトチームの中で話をさせていただきたい、そんなふうに考えておるところです。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか、次の方に行ってしまうて。

○参加者 論文のはあれなんですけど、東久留米のは段階的廃園なんですね、しんかわ保育園が今、進行中ですけども。しんかわ保育園ではありませんが、東久留米でずっと保育士をされていた方と知り合いで、段階的廃園が進んでいる状態の子どもの様子を聞き取りました。やっぱりそこで、おなかが痛いとか当園渋り、朝行きたくないとか泣いてる子はいるよという話を聞いていますので、事実としてそれはあると思います。

市の東久留米市に聞いたところ、そういった子どもへの影響があったというふうには聞いてないという、確認できていないという答弁が先ほどありましたけれども、市の方の認識されている、何というかな、把握されている情報と現場で子どもに直接接している保育士との情報の量とか、何というんですかね、質というか中身というのか、それは

違うんじゃないかなというふうに私は思っています。

○三浦保育課長 じゃあ、1回ご意見ということでいいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 すみません。

じゃあ、女性の方。

○参加者 すみません、時間が過ぎている中での挙手で大変恐縮です。

今、もともとちょっとご意見を伺いたいなと思っていたこととは少し別なんですけど、今、教育長のほうから段階的縮小で手厚くなるというふうな発言があられたんですけども、今日までの間に今回の廃園によって子どもの保育が手厚くなるというふうには保護者に対しては何も示されておらず、例えば、職員は人数減らしませんとも言われてないし、むしろ、それは子どもが減るに比例して職員は減りますというふうに言われているんですね。なので、正直ちょっと手厚くなりますという、もしそれが決定されているのであれば具体的にご回答いただきたいなと思っています。

今回、廃園案が今年の8月に保護者に知らされて、今日まで私も1回目の説明会と今回参加させていただいているんですけども、市、当然、立場が違うので考えが全く同じとは当然思いませんし、市としてこの取組が必要なんだろうというのは、1回目の説明会に参加したことで大変よく理解できる場所もありました。

しかしながら、やはりこの廃園をじゃあどういうふうに迎えていくのかに当たって、市の皆さんの考えと保護者の考えに大きく乖離があるというのはすごく感じていて、それはとてもいいギャップではなくて、大変不安に感じています。例えば、今はこうして説明会が開催されていますが、当初コロナ禍であることを理由に説明会の予定はありません、それで廃園を進めていきますというような話でしたし、保護者が一生懸命署名を集める中で、こういう今状況に、何とか保護者たちの努力があって持ってこられているというふうに感じています。

あと、1回目の説明会で大変印象に残っているのが、市長の最初のご挨拶のときに、大変この廃園案に対して唐突であるという意見をもらったけれども、実はそうではなくて、長いこと準備をかけての廃園の発表であったというようなお話があったと思うんですが、保護者にとっては大変唐突でした。私も今年の4月に0歳児の第1子をこの保育園に入園させて、そこで初めて民営化の議論がされている保育園だということも知りましたが、でも、先輩ママさんたちの話から、コロナの影響もあって民営化の話進んでな

いからまだまだ大丈夫だよみたいに聞いてたんですけど、その数か月後には廃園ということが知らされて大変驚きましたし、先ほど詐欺というふうにおっしゃった方もいらっしやいますし、後悔したというご意見の方もありましたし、本当に同じような気持ちを持ちました。当然、今、子どもを預けていて、大変、保育士の皆さんには感謝していますし、なんですが、廃園に対してはやはりちょっと不満というか、そういう気持ちはやはりほかの保護者の方と同じです。

今回のように知らされたとしたら、今年の8月であっても、来年の8月であっても、やはり保護者はみんな唐突であったと感じたと思います。民営化が話し合われている中でこの状況、これだけ時間がたっている中で廃園も考えなければいけない時期に入ってきたというふうにそのときにやはり知らせていただければ、今話し合わなければならないことがこんなに山積している状況ではなかったのではないかと感じています。

今こうして廃園問題に巻き込まれて、今在園している子どもたちと、あと、その家庭の安定した保育をやはり保障してほしいというふうに感じています。次の子どもがまたさらに授かるようなことがあったときに、やはり別の保育園にそれぞれ送らなければならないとか、そういうことが市の廃園のせいと云ったら変ですが、このせいで保護者側や子どもの生活が変わることは非常に許し難いというふうに感じています。

本当に個人的な希望を言わせていただけたら、今、在園している子どもの家庭においては、次に生まれた子どもがいたとして、希望すればさくら保育園に預かっていたらというようなことをぜひご検討いただきたいと思っています。

今こうして保護者がたくさん納得していない状況がある中で、先ほど市長のほうからは、いろんな意見がある中でも市長のほうでご判断されるということだったんですが、保護者が納得していない状況が続いている中で、本当に今の案のとおり進めていかれるのかということをお聞きしたいと思っています。

○西岡市長            ありがとうございます。

すみません、2時間半経過して、ちょっとお子様預からせていただいている、ちょっと様子が心配ですが、大丈夫ですかね、まだ。

○参加者            大丈夫です。

○西岡市長            そうですか。すみません。

それでは、私のほうからご答弁し、担当から補足いたします。

まず、職員体制です。まず保育の運営、先ほども申し上げましたように、たとえ令和

9年度に5歳児が1人になってしまったとしても、これは保育園の運営体制はしっかり構築いたします。給食、調理員、看護師含めて配置をする。そして、5歳児について申し上げれば、これ国基準というのが一定の基準がありますが、それを下回るような配置では保育園の運営ができませんので、示されている基準以上の充実した体制を取れるように努力はさせていただきたいと思っております。

まだ5歳児の年齢が今まだ現時点では定かにはなっていませんので、何人で何人ということは申し上げられませんが、市としては、必要な職員体制はしっかりと体制を構築、最後までさせていただくということは断言させていただきたいと存じます。

また、話が唐突であって非常に憤りを感じてるというご指摘は、真摯に受け止めてさせていただきます。確かにコロナの関係がありましたので、第五波という状況もあり、すぐに説明会の開催ができず、その間、意見シートということではありましたけれども、全ての保護者の皆様方にご配布をさせていただいて、多くのご意見をいただき、まず回答はさせていただきました。その後、修正をさせていただいて、その後に説明会に入らせていただきました。平成9年からと申し上げましたけれども、いろいろな変遷を経ましてたくさんの会議体、かなり長時間にわたる議論を経て、今日、市長といたしまして方針案というものをまとめさせていただいて、今、相互の理解が得られるように説明会に臨ませていただいている渦中、その最中にございます。

いろいろなご不安を生じさせてしまってることにしましては、改めて深くおわびを申し上げたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。

しかし、今置かれている現状、将来のことをいろいろ考えますと、この段階的縮小の後に廃園するという方向性で市長としてはご理解をいただけるように、引き続き、説明会をまだ今開催している最中ですので、努力をさせていただきたいと考えております。

その中で、民営化についてもいろいろと議論をしてきましたが、民営化の場合は途中引継ぎの期間があるにせよ、ある段階から保育士が一斉に替わってしまうということがどうしても避けられない手法でありまして、民営化を選択しない理由というのはほかにもいろいろいっぱいあるんですけれども、やはり保護者の方々からは、一斉に保育士が替わることは、それは子どもたちにとってもいかなものかというご意見は多々保護者の方からいただいておりますので、その方策は取りませんでした。在園まで、最後までですね、お子様をしっかりと預かりできる、安心できる保育園であるように最大限努力をさせていただきたいと思っております。



最後の、きょうだいが生まれた場合にはさくら保育園に通えるようにしてほしいというその願いはしっかり受け止めさせていただきたいと思いますが、なかなか、ある段階で行政も計画的に事を進めていかなければいけないという状況もありますので、不確定な部分の中ではなかなか答弁をするのが非常に難しい。その思いはよくよく分かるのでありますけれども、一定のやはり計画を持って臨まなければいけないという立場にあるということはどうかご理解をいただきたいと思っております。

○平岡保育政策担当課長 ちょっと細かいところで抜けていたかなというところだけ。職員体制の手厚くなるというところなんです、市長が申し上げたとおり、今具体的に何人何人というところまではお伝えできないんですけども、イメージしている考え方からしますと、0歳児クラスの担任が何人というふうに担任表があると思うんですが、例えば0歳児を募集しなくなったとし、1歳から5歳までの園になったときに、0歳児のところに乗っている人数分丸々いなくなるということは考えていないです。それよりも少ない人数で、減らすにしても少なくして少し、余力という言い方は失礼なんですけれども、今よりも余力を持たせた形で職員の配置を減らしていくというふうに考えておりますので、そういう話をちょっと内部でもしていたところから、それをちょっと手厚くという言葉で言わせていただいたのではないかと考えております。

それから、1点、ご質問ではないんですけども、当初の方針案だけ配ったタイミングなんです、私どもも実は説明会をすぐに行なうべきというふうに理解をしていたんですが、おっしゃっているとおりコロナで結局10月までできなかったということがあります。その際に配ったときに、説明会をしないという誤解を与えてしまったところも含めて、私たちの物の伝え方ですとか対応にやはり問題があったなというふうに思っております。

説明会をさせていただいて、そういったお話をいただければそのような形で、そういう意図はなかったけれども、きちんとご説明が伝わっていなかったというお話はできたかなと思っておりますが、そういうような状況もこちらとして与えてしまったところは、唐突というところも含めて大変申し訳なかったというふうに思っております。

以上です。

○三浦保育課長 いかがですか。よろしいですか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 そのほかいかがでしょうか。

じゃあ、最後でいいですか、男性の方。

○参加者 　　あまり時間はかかんない…。

○三浦保育課長 よろしくお願ひします。

○参加者 　　すみません。一つの意見と一つの質問をさせていただきます。

まず意見なんですけども、クラウドファンディングやってみたらいいんじゃないんですかね。先ほど難しいとおっしゃってますけど、やらなきゃゼロなんですよ。やってみたらいいんじゃないですかね、まず。それで駄目だったら駄目でもいいですし、そこ検討して、検討というかやってください。お願ひします。

あと、一つの質問なんですけど、ちょっと残念ながら廃園になってしまった場合のこの土地の活用の方法については、いつ頃示されるのかというのをちょっと知りたいというのがあります。

○西岡市長 　　クラウドファンディングの場合の、駄目でもやってみたらいいではないかというご意見をいただきました。しかし、クラウドファンディング、私も、新型コロナウイルスの関係で初めて小金井市やったんですね、1年ほど前に。ほかの自治体の例などいろいろ見てますけれども、やっぱりなかなか難しい。失敗してもいいからクラウドファンディングに挑むというのは、非常にそれは、精神的には私もおっしゃってる意味は理解するところです。何事も失敗を恐れずに挑戦する姿勢というのは、それは大事ですし、私たち、子どもたちにも時々そういう話をする必要がありますから。しかし、事は保育園の建て替えができるかどうかという状況であるならば、極めて不確定要素で、また目標額も非常にこれは相当な金額が、億を超えるわけですから、これは慎重な姿勢が必要ではないかなと私としては考えます。

二つ目の質問……、すみません、土地活用の時期ですが、今はまだ方針案の段階なので、本格的な跡地活用の検討は始められません、現時点では。始めるとすれば、これは条例改正案を議会に出して、議会で可決成立をしないと、この段階的縮小から廃園ということは手続上できないものです。なので、本格的な検討はその条例が可決されて、その後約6年後の廃園ということになりますから、その年数をかけて検討するということがありますが、恐らく庁内には跡地活用の検討部会（仮称）なるものが子ども家庭部や、恐らくは企画財政部、横断的にプロジェクトチームができると思うんですね。その中で検討し、また、時に市民や議会の皆様方からのご意見なども伺いながら、特にあと地域の方々の声なども把握しながら、適切な有効活用を図っていくことになると思います。

即座に民間に売却して宅地にしていくようなことは、私は現時点では全く考えておりません。長い間保育園として活用してきたさくら保育園やくりのみ保育園の跡地という歴史に鑑みまして、やはり地域のため、小金井市のためになるような有効活用というものを考えていくことになるだろうと思っております。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

では、すみません、ちょっと長く時間がかかってしまいましたけども、以上をもちまして説明会のほうは終了をさせていただきます。

なお、先ほどもご案内いたしましたけれども、本日の説明会、個人情報に配慮させていただきながら市のホームページで公開をさせていただく予定でございますので、ご了承をいただければと思います。

それでは、改めまして、本日ご出席いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして散会とさせていただきます。

閉 会